

国語 科目 言語文化

单位数： 2 单位

使用教科書：（ 大修館書店『言語文化』 ）

言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価標準	知	思	態	配 当 時 数
			話・ 聞	書	読					
1 学 期	1 古文に親しむ ・物語の展開をとらえる。 ・話のおもしろさを味わう。	【教材名】 宇治拾遺物語 『児のそら寝』	○	○	○	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	○	○	○	10
	・作品の人物像を理解する。 ・物語の結末について考えを深める。	【教材名】 宇治拾遺物語 『絵仏師良秀』	○	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	2 人との交わり ・物語の内容を読み取り、登場人物の関係を理解する。 ・歌に込められた登場人物の思いをとらえる。	【教材名】 伊勢物語 『芥川』	○	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○	○	○	10
	・文学史としての歌物語を理解する。 ・和歌の修辞技法と、その効果を理解する。	【教材名】 伊勢物語 『あづま下り』	○	○	○	・作品に興味をもち、旅の行程を理解したり、和歌の修辞技法とその効果を理解したりしようとしている。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
2 学 期	3 旅と人生 ・日記の形態や書き手の設定に着目し、その効果について考える。	【教材名】 土佐日記 『門出』	○	○	○	・作品に興味をもち、日記という形態や書き手の設定に着目しながら読もうとしている。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	○	○	○	10
	4 私たちと漢文 ・漢文と我が国の言語文化の関わりについて関心をもつ。	【教材名】 訓読のきまり ①返り点の種類と用法 ②再読文字の種類と用法	○	○	○	・漢文の学習に興味をもち、漢文と我が国の言語文化の関わりについて関心をもっている。 ・漢文訓得のきまりを理解しようとしている。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	5 旅と人生② ・作者にとって旅がどのような価値を持つものであったのかを理解する。	【教材名】 更級日記 『あこがれ』	○	○	○	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・作品に興味をもち、作者の旅に対する思いを読み取ろうとしている。	○	○	○	10
	6 想いを表す言葉 ・自然をうたった漢詩を読み味わい、表現の工夫をとらえる。	【教材名】 自然 『静夜思/江雪/山行』	○	○	○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
3 学 期	7 語り継がれる歴史 ・登場人物の会話や行動を整理し、どのように描かれているかを読み取る。 ・『平家物語』に特徴的な文体のリズムを味わう。	【教材名】 平家物語 『木曾の最期』	○	○	○	・作品に興味をもち、登場人物の人物像や文体の特徴をとらえようとしている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
										合計 57

国語 科目 現代の国語

单位数： 2 单位

使用教科書：（ 大修館書店『現代の国語』 ）

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話・聞	書	読					
1 学 期	1 要点をつかむ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正確さ、わかりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。	・叙述を的確にとらえる。 ・具体と抽象を理解し、文章の要点を的確にまとめる。	○	○	○	「文章の要点をつかむ」 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正確さ、わかりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。	○	○	○	10
	2 意見を示す 「話すこと・聞くこと」において、論点を共有し、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いのしかたや結論の出し方を工夫すること。	・他者と意見を交流し、アイデアを出し合う。 ・アイデアを整理し、さらに発想を広げる。	○	○	○	「話すこと・聞くこと」において、論点を共有し、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いのしかたや結論の出し方を工夫している。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	3 の確に伝える 実用的な文章に興味を持ち、その意図や表現上の工夫をとらえたり、わかりやすく書いたりする学習に取り組むこと。	・話し言葉の特徴を知る。 ・相手に正確に伝わるようにわかりやすく書く。	○	○	○	実用的な文章に興味を持ち、その意図や表現上の工夫をとらえたり、わかりやすく書いたりする学習に取り組んでいる。	○	○	○	10
	4 論理をとらえる 論理的文章を読むことに興味を持ち、論理関係を意識して読むこと。	・主張と根拠、理由付けの関係をとりえる。	○	○	○	論理的文章を読むことに興味を持ち、論理関係を意識して読んでいる。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
2 学 期	5 資料を駆使する 情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたについて理解を深め使うこと。	・資料と文章の関係に注意して、情報を読み取る。	○	○	○	情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたについて理解を深め使っている。	○	○	○	10
	6 情報を比較する 複数の文章を比較して読むことに意欲をもち、共通点や相違点をとらえること。	・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。	○	○	○	複数の文章を比較して読むことに意欲をもち、共通点や相違点をとらえている。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	7 他者を動かす プレゼンテーションをすることに意欲を持ち、聞き手の心を動かす話をしようとして工夫すること。	・聞き手の心を動かす話し方を工夫する。 ・資料にもとづいて、効果的に発表する。	○	○	○	プレゼンテーションをすることに意欲を持ち、聞き手の心を動かす話をしようと工夫している。	○	○	○	10
	8 主張を吟味する 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。	・文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。	○	○	○	個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
3 学 期	9 考えを発信する 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。	・目的に即して、文章から必要な情報を読み取る。 ・読み取った情報を活用する	○	○	○	9 考えを発信する 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
										合計
										57

国語 科目 論理国語

单位数： 2 单位

使用教科書：（ 数研出版『精選 論理国語』 ）

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

の目標：

[illegible]

科目 古典探究

单位数： 3 单位

使用教科書：（ 数研出版『古典探究』 古文編 漢文編

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語・ 聞	書	読					
1 学 期	説話 ・物語の展開をとらえる。 ・話のおもしろさを味わう。	【教材名】 『十訓抄』 「大江山」	○	○	○	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・説話文学に興味を持ち、登場人物の言動などから多様な価値観を読み取ろうとしている。	○	○	○	13
	物語 ・歌物語の特徴について理解し、味読する。	【教材名】 『伊勢物語』 「初冠」	○	○	○	・「詠むこと」において、分掌の種類を踏まえて、構成や展開などを的確にとらえている。 ・作品の文学史的な位置づけを理解し、登場人物の心情をつかもうとしている。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	故事 必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深め、「画竜点睛」という成語の成り立ちについて進んで考察し、本文を解釈しようとしている。	【教材名】 『歴代名画記』 「画竜点睛」	○	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○	○	○	15
	歴史物語 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について理解する。	【教材名】 『大鏡』 「南院の鏡射」	○	○	○	・必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈すると共に、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
2 学 期	歴史物語 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について理解する。 漢文（思想） 孟子が主張する「四端」と仁・義・礼・智の関係について理解する。	【教材名】 『大鏡』 「花山天皇の出家」 『孟子』 「不忍人之心」	○	○	○	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 ・平安時代の貴族文化を踏まえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査						○	○		1
	日記文学 物語 ・登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について、作者がどのように思っているかを考える。	【教材名】 『更級日記』 「物語」 『源氏物語』 「光源氏の誕生」	○	○	○	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて構成や展開などを的確にとらえている。 ・歴史物語の特徴を踏まえ、人物や事件についての作者の視点を考えようとしている。	○	○	○	15
	定期考査						○	○		1
	3 学 期	物語 ・登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について、作者がどのように思っているかを考え、さまざまな人物像を通して人間の生き方について考えを深める。	【教材名】 『源氏物語』 「藤壺の入内」「小柴垣のもと」	○	○	○	積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	○	○	○
定期考査							○	○		1
										合計 81

国語 科目 論理国語

单位数： 2 单位

使用教科書：（ 桐原書店『探求論理国語』 ）

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

の目標：

[illegible]

科目 論理国語演習

单位数： 2 单位

使用教材：（数研出版『新訂版正しく読み・解くための力をつける現代文』 尚文出版『新共通テスト対策決戦現代文完答22+6』）

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力ようにする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めようとしている。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・ 聞	書	読					
1 学期	問題演習 1 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。	問題演習		○	○	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
2 学期	問題演習 2 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	問題演習		○	○	・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
	問題演習 2 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	問題演習		○	○	・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
3 学期										
										合計 63

科目 古文演習

单位数： 2 单位

使用教科書：（大修館書店『古典探究』・いいずな書店『改訂版プログレス古文総演習発展編』・尚文出版『三訂新版共通テスト対策古典完答22』）

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

の目標：

[illegible]

国語 科目 古文演習

单位数： 4 单位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A～F八神竜哉・江尻雅輝）

使用教科書：（大修館書店『古典探究』・いいずな書店『改訂版プログレス古文総演習発展編』・尚文出版『三訂新版共通テスト対策古典完答22』）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力ようにする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 古文演習

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	2 随筆 ・作者のものの見方や感じ方また教養などについて理解する。 ・各章段の内容を、執筆と流布の経緯に結びつけて理解する。	【教材名】 枕草子	○	○	○	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確にとらえている。	○	○	○	20
	3 物語（一） ・現代の社会と結びつけて古典文学の世界を理解する。	【教材名】 堤中納言物語	○	○	○	・戦陣の物見方、感じ方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	3 物語（一） ・登場人物の才能、行動や心情を捉え、作者がどのように捉えているかを考える。	【教材名】 大鏡	○	○	○	・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・歴史物語に興味を持ち、歴史と物語の違いについて、自分の考えを持とうとしている。	○	○	○	20
	4 日記 ・日記における和歌を用いた表現の特色について理解する。	【教材名】 蜻蛉日記・和泉式部日記	○	○	○	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
2 学 期	5 物語（二） ・登場人物の言動や心中思惟を的確にとらえ、人物造型を把握する。	【教材名】 源氏物語	○	○	○	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 ・平安時代の貴族文化を踏まえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
	5 物語（二） ・登場人物の言動や心中思惟を的確にとらえ、人物造型を把握する。	【教材名】 源氏物語	○	○	○	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 ・平安時代の貴族文化を踏まえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
3 学 期										
合計										
84										

高等学校 令和7年度（3学年用）語 教科 国語 科目 漢文演習

教 科： 国語 科 目： 漢文演習 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（選択：八神竜哉

使用教科書：（大修館書店「古典探究」・尚文出版精選漢文・古典完答22・新演習漢文アチーブ3 ）

教科 国語の目標

【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、能力を育成することを目指す。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で、伝え合う力を高め、思考力・判断力を磨く。

【学びに向かう力、人間性等】言葉の持つ価値への認識を高め、言語感覚を磨き、言語文化の担い手としての自覚を持たせる。

科目 漢文演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を持ち、他者や社会と関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	漢文基礎の復習 ・漢文の構造 ・訓読の仕方 ・書き下し文の決まりごと	「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「古典完答22」にて、共通テスト対策問題を解き、解説する。	○	○	○	・漢文の基礎が出来ているか。 ・正確に訓読できるか。 ・書き下し文のルールについて把握できているか。	○	○	○	4
	漢文の句形の理解 否定形 問形 形 形	・「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「古典完答22」にて、共通テスト対策問題を解き、解説する。 漢文アチーブを用いて、問題演習を行う	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1
	漢文の句形の理解 願望形 定形 形 形	・「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「古典完答22」にて、共通テスト対策問題を解き、解説する。 漢文アチーブを用いて、問題演習を行う	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。	○	○	○	4
	漢文の句形の理解 限定形 加形 較形 形	・「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「古典完答22」にて、共通テスト対策問題を解き、解説する。漢文アチーブを用いて、問題演習を行う	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1
2 学 期	漢文の句形の理解 選択形 揚形 辞法	・「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「古典完答22」にて、共通テスト対策問題を解き、解説する。漢文アチーブを用いて、問題演習を行う	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。 ・初読の漢文を読み、ある程度内容が理解できるか。	○	○	○	4
	漢文の用字の理解 基本重要語 読文字・置き字	・「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「漢文総演習」にて、一般入試対策問題を解き、解説する。漢文アチーブを用いて、問題演習を行う	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。 ・初読の漢文を読み、ある程度内容が理解できるか。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1
	漢文の用字の理解 疑問形・反語形・詠嘆形に使われる語。	・「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「漢文総演習」にて、一般入試対策問題を解き、解説する。漢文アチーブを用いて、問題演習を行う	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。 ・初読の漢文を読み、ある程度内容が理解できるか。	○	○	○	4
	漢文の用字の理解 受身形・使役形に使われる語。 ・仮定形・限定形に使われる語。	・「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「漢文総演習」にて、一般入試対策問題を解き、解説する。漢文アチーブを用いて、問題演習を行う	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。 ・初読の漢文を読み、ある程度内容が理解できるか。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1

高等学校 令和7年度（3 学年用）教科 公民 科目 政治・経済

教科： 公民 科目： 政治・経済 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者： （A組：内田昌伸） （B組：内田昌伸） （C組：内田昌伸） （D組：内田昌伸） （E組：内田昌伸） （F組：内田昌伸）

使用教科書： （ 実教出版 詳述 政治・経済 ）

教科 公民 の目標： 人間の尊厳と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考える力を養い、良識ある公民として必要な能力を育てる。

【知識及び技能】現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させる。

【思考力、判断力、表現力等】現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる

【学びに向かう力、人間性等】現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。

科目 政治・経済 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
政治・経済に関する事項について、身近な事象を事例として取り上げ、生徒が具体物を通じて政治的・経済的現象を考察できる能力を育てる。	政治的分野、経済的分野、国際関係分野の基本用語を正しく理解させ、用語の意味を自分の言葉で説明できるようにする。	授業ごとに学習事項についてのまとめを生徒に記述させたり、適宜レポートを課すなどして、要約力・表現力の向上を図る取組を実施する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 1. 現代日本の政治 【知識及び技能】 日本国憲法の成立、日本国憲法における平和主義、基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 基本的人権の意義、法の支配、民主政治の発達と人権の発達、世界の政治体制、20世紀の教訓を学習し、民主政治の課題は何か考える。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・第1章 民主政治の基本原理解 ・第2章 日本国憲法の基本的性格 ・第3章 日本の政治機構 ・第4章 現代日本の政治	【知識及び技能】 現代の日本の政治及び動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 民主主義の本質について把握させ、政治についての基本的な考え方を身につけ、民主政治の基本原理解、現代日本の政治に関する事項について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	9
	定期考査			○	○	○	1
	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 2. 現代日本の経済 【知識及び技能】 経済活動と市場、経済主体と経済循環、財政・金融の仕組み及び意義について、現実社会の諸事情を通して理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 経済活動と社会福祉全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・第1章 経済社会の変容 ・第2章 現代経済の仕組み ・第3章 現代経済と福祉の向上	【知識及び技能】 ・経済の仕組みの歴史の変遷、資本主義の本質と課題に関して理解している。 ・市場の機能と各経済主体の役割等に関して理解している。 ・現代企業の特徴、経済成長、景気循環に関する事項について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現代日本の経済の現状を踏まえつつ、現実社会の諸事情に関して、多面的・多角的に考察し、それを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○	○	1

2 学期	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 3. 現代日本における諸課題の探求 【知識及び技能】 少子高齢化における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立等に関する事項を通して理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 社会保障、地方の活性化全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・少子高齢化における社会保障の充実・安定化 ・地域社会の自立と政府 ・防災と安全安心な社会の実現	【知識及び技能】 ・少子高齢化の実態、推移等の事項に関して理解している。 ・社会保障の実現、課題等に関して十分理解している。 ・地域社会の活性化に関する事項に関して理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 地方自治の本旨に基づく行政はどうあるべきか、住民と自治体の連携はどうあるべきか、多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	5
	B. グローバル化する国際社会の諸課題 1. 現代の国際政治 【知識及び技能】 国際社会の変遷、人権、国家主権に関する事項について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に国際法の果たす役割について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・国際政治の特質と国際法 ・現代国際政治の動向 ・国際連合と国際協力	B. グローバル化する国際社会の諸課題現代 1. 現代の国際政治 【知識及び技能】 国際政治の本質・意義、主権国家を基本単位とする国際社会がどんな政治を生み題してきたのかを、十分に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 国際社会における人権保障の取り組み、及び、人権保障に関する問題点・課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	○	○	○	8
	定期考査						
	B. グローバル化する国際社会の諸課題現代 2. 現代の国際経済 【知識及び技能】 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支に関する事項について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 相互依存関係が深まる国際経済の特質について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・商品・資本の流れと国際収支 ・国際経済体制の変化 ・グローバル化と世界金融	【知識及び技能】 国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について現実社会の諸事情を通して、理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 国際経済において、果たすことが求められる日本の役割について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	○	○	○	10
	B. グローバル化する国際社会の諸課題現代 3. 国際社会の諸課題の探求 【知識及び技能】 グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容に関して、理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 国際経済格差の是正と国際協力について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・紛争の解決に向けた国際社会の取り組み ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容。 ・イノベーションと市場経済	【知識及び技能】 グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容に内在する問題点、課題に関して、十分理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 世界に広がる経済格差に関して、国際社会はどうあるべきか、多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	・大学入試等への応用力養成 ・問題演習	個別指導		○	○	○	
	定期考査			○	○	○	1
							合計

高等学校 令和7年度（3学年用）教科 公民 科目 政治・経済 演習

教科：公民 科目：政治・経済 演習 単位数：4 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組選択者

教科担当者：（A～F組選択者：大沢紘希）

使用教科書：

浜島書店 最新図説 政経 2025

浜島書店 最新図説 公共 2025

啓隆社 '25共通テスト 実力トレーニング 公共, 政治・経済

啓隆社 '25共通テスト 実力トレーニング 公共, 政治・経済

授業プリント

教科 公民

の目標：

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う

【学びに向かう力、人間性等】

よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

科目 政治・経済 演習

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かおうとしている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1	B. グローバル化する国際社会の諸課題現代 1. 現代の国際政治 【知識及び技能】 国際政治と国際法の意義、国際連合の成立と活動、東西冷戦終結後の国際政治、核軍縮や管理について学習し、国際政治と日本の関係について考える。 【思考力、判断力、表現力等】 軍事力や力の政治によってのみでは、国際問題の最終的解決は不可能であり、国連をはじめとする多国間での協議の必要性、重要性に関し、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・国際政治の特質と国際法 ・現代国際政治の動向 ・国際連合と国際協力 上記各項目に関する問題演習	B. グローバル化する国際社会の諸課題現代 1. 現代の国際政治 【知識及び技能】 国際社会の変遷、人種、主権国家、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握し、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 2. 現代日本の経済 【知識及び技能】 現代の経済に関わる事象から課題を見だし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立ち、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 現代の経済の発展と社会との関わり、経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関係性を理解させる。	・経済社会の変容 ・現代経済の仕組み ・現代経済と福祉の向上 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 ・地域社会の自立と政府 ・防災と安全安心な社会の実現	【知識及び技能】 経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関係性を理解させる。				

学期	視野に立って多角的・多面的に考察し、様々な立場を踏まえながら公正に判断理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現代の経済に関わる諸資料を様々な手段を通して収集し、かつ、集めた情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。 A. 現代日本における政治・経済の諸課題 3. 現代日本における諸課題の探求 【知識及び技能】 少子高齢社会と社会保障、地域経済の変貌と住民生活、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食糧問題などについて、政治と経済とを関連させて探求させる。 【思考力、判断力、表現力等】 社会保障、地方の活性化全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	上記各項目に関する問題演習	関連を考察できる。 日本経済の発達推移、中小企業問題、日本の農業、国民の生活、環境・公害問題、労働問題、社会保障の役割等について学習し、さまざまな課題にどのように取り組むべきかを考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会における諸課題に関して、政治経済他多方面の事象と関連付けながら、多面的・多角的に考察し、解決策等について表現している。 【思考力、判断力、表現力等】 国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解し、グローバル化が進む国際経済の特質について把握及び、国際経済における日本の役割について、多面的・多角的に考察し、それを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	20
定期考査				○	○		1

2 学 期	B. グローバル化する国際社会の諸課題現代 2. 現代の国際経済 【知識及び技能】 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支に関する事項について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 相互依存関係が深まる国際経済の特質について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。 B. グローバル化する国際社会の諸課題 3. 国際社会の諸課題の探求 【知識及び技能】 現代の政治・経済・国際関係に関わる事象から課題を見だし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、様々な立場を踏まえながら公正に判断している。 グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容に関して、理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々な手段を通して収集し、かつ、集めた情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・商品・資本の流れと国際収支 ・国際経済体制の変化 ・グローバル化と世界金融 ・紛争の解決に向けた国際社会の取り組み ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容。 ・イノベーションと市場経済 上記項目に関する問題演習	【知識及び技能】 貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 グローバル化が進む国際経済の特質について把握し、国際経済における日本の役割について多面的に考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。 【知識及び技能】 現代の国際政治、国際経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 国際社会の中で、民主主義がどのように実現されているか理解し、様々な国際機関の果たす役割に関して考察し、今後の国際社会のあるべき姿について考え、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	・大学入試等への応用力養成 ・問題演習	個別指導					20
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	・大学入試等への応用力養成 ・問題演習	個別指導		○	○	○	合計 84

高等学校 令和7年度（2学年用）教科 地理歴史 科目 地理探究

教 科： 地理歴史 科 目： 地理探究 単位数： 4 単 位

対象学年組：第 2 学年 E 組～ 組

教科担当者：（ E組：西村秀樹 （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ 新詳地理探究（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院） ）

教科 地理歴史 の目標： 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【知 識 及 び 技 能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理探究	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統的・地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に、議論したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探求しようとする態度を養うとともに、多面的多角的な考察や深い理解をする。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 地形・気候の成因と地域性を理解し、地形と気候が人間生活に与える影響を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 地形と人間の関係、気候と人間の関係を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 地形や気候を正しく理解し、その利用と危険回避について、人類にとっての福祉と幸福の観点から考えることができる。	・第1章 自然環境①	【知識及び技能】 ・各地形の形成過程とその土地利用を概ね理解している。 ・大気の循環と各地の気候の関連性について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 地形や気候が人間を含めた生態系と深いかわりがあることを理解し、これらの自然環境と上手に付き合うことの重要性を認識している。 【学びに向かう力、人間性等】 地形と気候との賢い人類の付き合い方を、自らも関わる人類の課題として捉えている。	○	○	○	24
	定期考查			○	○	○	1
	A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 日本の自然環境に関する諸事象の特色を理解できる。地球環境問題の現状と課題を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本の自然環境と防災・減災との関係性を理解し、自然災害への対処法などを多角的に考察できる。 ・地球環境問題への対応策を多面的・多角亭に考察し、それを表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 防災・減災・地球環境問題を自分の問題として捉え、自ら行動できる。	・第1章 自然環境②	【知識及び技能】 日本の自然環境に関する諸事象の特色を理解している。地球環境問題の現状と課題を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本の自然環境と防災・減災との関係性を理解し、自然災害への対処法などを多角的に考察している。 ・地球環境問題への対応策を多面的・多角亭に考察し、それを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 防災・減災・地球環境問題を自分の問題として捉え、自ら行動しようとしている。	○	○	○	8
	A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 農林水産業に関する諸事象の規則性、傾向性を理解する。食料問題の現状と解決への取り組みなどについて理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 農林水産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 農林水産業・食料に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。	・第2章 資源と産業①	【知識及び技能】 農林水産業に関する諸事象の規則性、傾向性を理解している。食料問題の現状と解決への取り組みなどについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 農林水産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 農林水産業・食料に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育もうとしている。	○	○	○	16
	定期考查			○	○	○	1

2 学 期	A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。	・第2章 資源と産業②	【知識及び技能】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する課題について、関心と問題意識を高め、自ら解決のため行動する姿勢が見られる。	○	○	○	10
	A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 交通・通信と観光、貿易に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 交通・通信と観光、貿易に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 交通・通信と観光、貿易に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。	・第3章 交通・通信と観光、貿易	【知識及び技能】 交通・通信と観光、貿易に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 交通・通信と観光、貿易に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 交通・通信と観光、貿易に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育もうとしている。	○	○	○	18
	定期考査			○	○	○	1
	A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 人口・村落・都市に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 人口・村落・都市に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 人口・村落・都市に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。	・第4章 人口、村落・都市	【知識及び技能】 人口・村落・都市に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 人口・村落・都市に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 人口・村落・都市に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育もうとしている。	○	○	○	12
	A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 生活文化・民族・宗教に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生活文化・民族・宗教に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生活文化・民族・宗教に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。	・第5章 生活文化、民族・宗教	【知識及び技能】 生活文化・民族・宗教に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 生活文化・民族・宗教に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 生活文化・民族・宗教に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育もうとしている。	○	○	○	12
3 学 期	定期考査			○	○	○	1
	B. 現代世界の地誌的考察 【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分概念・意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が身に付く。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くための努力ができる。	・第1章 現代世界の地域区分 ・第2章 現代世界の諸地域	【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分概念・意義を多面的・多角的に考察している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が見られる。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くため自ら努力しようと考えている。	○	○	○	37
	C. 現代世界におけるこれからの日本の国土像	・第1章 持続可能な国土像の探究	【知識及び技能】 現代世界における日本の国土の特色や課題につ				

【知識及び技能】 現代世界における日本の国土の特色や課題について、多角的で客観的な視点を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 日本が抱える地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果を表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 日本が抱える地理的な諸課題に対する問題意識を高め、意欲的に探求しようとしている。	※進度の関係や進路希望によって、指導の順序や配当時間の変更の可能性もある。	いて、多角的で客観的な視点を身に付けようとしている。 【思考力、判断力、表現力等】 日本が抱える地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果を表現できている。 【学びに向かう力、人間性等】 日本が抱える地理的な諸課題に対する問題意識を高め、意欲的に探求しようという姿勢が見られる。	○	○	○	3
定期考査			○	○	○	1
						合計
						145

高等学校 令和7年度（2 学年用）教科 地理歴史科 科目 日本史探究

教科： 地理歴史科 科目： 日本史探究

単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ D 組

教科担当者： （ A 組：高萩 ） （ B：高萩 ） （ C組：高萩 ） （ D組：高萩 ）

使用教科書： （ 日本史探究『詳説日本史』 ）

教科 地理歴史科 の目標：

【知識及び技能】 日本列島の地的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 歴史事象の意味や意義、特色や相互の関連を概念的に理解し、多面的・多角的に考察したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 歴史事象について、主体的に理解しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをともに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 日本文化のあけぼの 【知識及び技能】 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、堅穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	1 文化の始まり 日本列島と日本人／旧石器人の生活／縄文文化の成立／縄文人の生活と信仰 2 農耕社会の成立 弥生文化の成立／弥生人の生活／小国の分立／邪馬台国連合	【知識・技能】 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 【思考・判断・表現】 黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	10
	第2章 古墳とヤマト政権 【知識及び技能】 地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 【思考力、判断力、表現力等】 ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	1 古墳文化の展開 古墳の出現とヤマト政権／前期中期の古墳／東アジア諸国の交渉／大陸文化の受容／後期の古墳／古墳時代の人々の生活／ヤマト政権と政治制度／古墳の終末 2 飛鳥の朝廷 東アジアの動向とヤマト政権の発展／飛鳥の朝廷と文化	【知識・技能】 国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じて、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第3章 律令国家の形成 【知識及び技能】 律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 【思考力、判断力、表現力等】 平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	3 律令国家の形成 律令国家への道／平城京の時代／律令国家の文化／律令国家の変容	【知識・技能】 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 【思考・判断・表現】 天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
	第4章 貴族政治の展開 【知識及び技能】 大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	4 貴族生活の展開 摂関政治／国風文化／地方政治の展開と武士	【知識・技能】 藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 【思考・判断・表現】 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1

3 学 期	第5章 院政と武士の躍進 【知識及び技能】 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	5 院政と武士の躍進 院政の始まり 院政と平氏政権	【知識・技能】 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 武士が台頭する契機や、この時代の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を俯瞰する問いを表現し、追究しようとしている。	○	○	○	20
	第6章 武家政権の成立 【知識及び技能】 鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料や地図、表などから情報を読み取り、考えることができる。	6 武家政権の誕生 鎌倉幕府の成立 武士の社会 モンゴル襲来と幕府の衰退 鎌倉文化	【知識・技能】 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 【思考・判断・表現】 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
							合計
							137

調布南高等学校 令和7年度 教科 地理歴史 科目 世界史探究

教科： 地理歴史 科目： 世界史探究 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 E 組～ F 組

教科担当者： (E組： 荒井) (F組： 荒井) (組：) (組：) (組：) (組：)

使用教科書： (山川出版社「世界史探究 詳説世界史」)

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して認識される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A. 世界史へのまなざし 【知識及び技能】 人類の誕生と地球規模での拡散・異動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 世界史へのまなざしについて主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探究しようとする態度を養うこと。	世界史へのまなざし① 世界史へのまなざし②	【知識・技能】 ・人類の誕生と地球規模での拡散・異動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解している。 ・衣食住、家族、教育、余暇などの身の回りの諸事象を基に、私たちの日常生活が世界の歴史とつながることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察している。 ・諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然環境と人類の進化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	B. 諸地域の歴史的特質の形成 【知識及び技能】 オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の文明について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第1章 文明の成立と古代文明の特質	【知識・技能】 諸地域の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。 【思考・判断・表現】 様々な資料をもとに、富や地位の差が生まれていった背景や原因、当時の政治や支配のあり方、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	1学期中間考査			○	○		1
	B. 諸地域の歴史的特質の形成 【知識及び技能】 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解すること。 南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解すること。 西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解すること。 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成について理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 概ね8世紀以前の諸地域の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、社会や文化の特色、宗教を基盤とした国家の特徴、周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の歴史的特質の形成について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	【知識・技能】 概ね8世紀以前の世界について、諸地域がそれぞれどのようにして独自の世界を形づくっていったのかを、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。 【思考・判断・表現】 概ね8世紀以前の世界について、様々な資料をもとに、それぞれの社会の特徴や近隣諸国との関係およびその変遷を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の歴史的特質の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	24
	1学期期末考査			○	○		1

2 学 期	C. 諸地域の交流と再編 【知識及び技能】 概ね8～13世紀の世界について、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解すると共に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、8～13世紀の世界における交流と再編について多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の交流と再編について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	【知識・技能】 概ね8～13世紀の世界について、イスラーム世界・中世ヨーロッパ世界・東アジア世界が各々再編を経て、モンゴル帝国の下に統合をみる経緯を理解している。 【思考・判断・表現】 概ね8～13世紀の世界について、様々な資料をもとに、諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の交流と再編について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	28
	2学期中間考査			○	○		1
	C. 諸地域の交流と再編 【知識及び技能】 概ね14～18世紀の世界について、アジア諸地域の特質、及び主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 アジア諸地域及びヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、14～18世紀の世界における交流と再編について多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の交流と再編について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄	【知識・技能】 概ね14～18世紀の世界について、ヨーロッパ主導の世界の一体化が始まる一方で、アジアにおいて多民族国家形成の試みが進められたことを理解している。 【思考・判断・表現】 概ね14～18世紀の世界について、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響、及び清・オスマン帝国・ムガル帝国により構築された多民族共存のシステムが示唆する今日の意義を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の交流と再編について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	24
	2学期期末考査			○	○		1
3 学 期	C. 諸地域の交流と再編 【知識及び技能】 概ね14～18世紀の世界について、アジア諸地域の特質、及び主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 アジア諸地域及びヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、14～18世紀の世界における交流と再編について多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の交流と再編について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	【知識・技能】 概ね14～18世紀の世界について、ルネサンスと宗教改革、主権国家体制の成立と市民革命、科学革命の具体的様相を理解している。 【思考・判断・表現】 概ね14～18世紀の世界について、様々な資料をもとに、宗教改革が今日のヨーロッパの宗派分布とキリスト教の世界伝播に与えた影響、主権国家体制が今日の国際関係の基盤を成していること、及び科学革命が今日の合理的思考の前提を提供したことについて、多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の交流と再編について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	40
	学年末考査			○	○		1
							合計
							145

高等学校 令和7年度 教科 地理歴史 科目 世界史演習

教科： 地理歴史 科目： 世界史演習 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A組： 進藤 ）（B組： 進藤 ）（C組： 進藤 ）（D組： 進藤 ）（E組： 進藤 ）（F組： 進藤 ）

使用教科書：（ 山川出版社「世界史探究 詳説世界史」 ）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	D、諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 産業革命とアメリカ独立、フランス革命とナポレオンの展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 大西洋兩岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、産業革命やアメリカ独立、フランス革命につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第12章 産業革命と環大西洋革命 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 テーマ史・文化史の視点を交えて説明する。 30～90字程度の論述問題に関する技法の説明・演習を行う。	【知識・技能】 概ね18世紀後半の世界について、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね18世紀後半の世界について、様々な資料をもとに、産業革命と市民革命が今日の世界に残した遺産である“国民国家”の理念について、今日の世界におけるグローバル化の潮流と比較・検討しつつ多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	D、諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 大西洋兩岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカの変容につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 テーマ史・文化史の視点を交えて説明する。 30～90字程度の論述問題に関する技法の説明・演習を行う。	【知識・技能】 概ね19世紀前半の世界について、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね19世紀前半の世界について、様々な資料をもとに、当時の国際関係の基調が英露間の“グレート＝ゲーム”を軸に展開したことを、地政学やシーレーン防衛の観点から今日の中ロの動向と比較・検討しつつ多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	1学期中間調査			○	○	○	1
	D、諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 テーマ史・文化史の視点を交えて説明する。 30～90字程度の論述問題に関する技法の説明・演習を行う。	【知識・技能】 概ね19世紀後半の世界について、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね19世紀後半の世界について、様々な資料をもとに、欧米からの外圧に対処したアジア諸国の取組を、今日のNies諸国やBRICS諸国の頭取や地域経済協力の現状と比較・検討しつつ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	24
	1学期期末調査			○	○	○	1

2 学 期	D. 諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 大学入学共通テスト、及び受講者の志望大学に沿った大学入試問題の演習を行う。	【知識・技能】 概ね19世紀後半の世界について、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね19世紀後半の世界について、様々な資料をもとに、帝国主義の実態と問題点について、“一帯一路”構想などに象徴される中華人民共和国の今日における動向と比較・検討しつつ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	D. 諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて読み解き、大戦後の国際協調主義とアジア・アフリカのナショナリズムを多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の交流と再編について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 大学入学共通テスト、及び受講者の志望大学に沿った大学入試問題の演習を行う。	【知識・技能】 概ね20世紀前半の世界について、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね20世紀前半の世界について、様々な資料をもとに、覇権国家が英から米へ推移する有様、及び“民族自決”の実態を、20世紀における米ソ対立、及び今日の民族紛争などと比較・検討しつつ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	2学期中間考査			○	○	○	1
	D. 諸地域の結合・変容 E. 地球世界の課題 【知識及び技能】 世界恐慌から冷戦終結に至る国際情勢を基に、国際関係の緊張と対立を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 世界恐慌から冷戦終結に至る諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて読み解き、20世紀における国際関係の変化とアジア諸地域の独立について多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探究しようとする態度を養うこと。	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第18章 冷戦と第三世界の台頭 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 大学入学共通テスト、及び受講者の志望大学に沿った大学入試問題の演習を行う。	【知識・技能】 概ね20世紀後半までの世界について、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね20世紀後半までの世界について、様々な資料をもとに、間戦期における国際協調の破綻から冷戦終結に至る経緯を、今日の地球社会に直接的な教訓を与える時代という面から多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	24
3 学 期	2学期期末考査			○	○	○	1
	大学入試問題演習	必要に応じて、個別指導を行う。					40
	学年末考査			○	○	○	1
							合計
							145

高等学校 令和7年度（3学年用）教科 地理歴史 科目 地理演習

教 科： 地理歴史 科 目： 地理演習 単位数： 4 単位
対象学年組：第 3 学年 E 組～ 組
教科担当者：（ E組：西村秀樹 （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）
使用教科書：（ ）

教科 地理歴史 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【知 識 及 び 技 能】 現代世界の地域的特色とその地域及び世界の歴史との関連性を理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関する諸事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題解決に向けて構想する力や、考察・構想したことを効果的に説明したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。又、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、市民としての自覚、我が国の国土や歴史を大切にする気持ち、他国や他国の文化を尊重する心を育てる。

科目 地理演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。又、地図や地理情報システムなどを用いた調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。さらに、進路希望に合わせ共通テストや国公立大学・私立大学入試に対応できる知識・技能を身に付けさせる。	地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に多面的・多角的な方向から考察し、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。又、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に、議論したりする力を養う。	地理に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探求しようとする態度を養うとともに、多面的多角的な考察や深い理解をする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。	・第2章3節 エネルギー・鉱産資源 ・第2章4節 資源・エネルギー問題 ・第2章5節 工業 ・第2章6節 第3次産業 ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習 ※進度によっては、第4章人口、村落・都市に入る。	【知識及び技能】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 資源・エネルギー・工業・第3次産業に関する課題について、関心と問題意識を高め、自ら解決のため行動する姿勢が見られる。	○	○	○	24
	定期考査			○	○	○	1
	A. 現代世界の系統地理的考察 【知識及び技能】 人口・村落・都市に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 人口・村落・都市に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 人口・村落・都市に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育む。	・第4章人口、村落・都市 ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習	【知識及び技能】 人口・村落・都市に関する諸事象を基に、それらの事象の規則性、傾向性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 人口・村落・都市に関する諸事象について、それらの事象の規則性、傾向性などを多面的・多角的に考察し表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 人口・村落・都市に関する課題について、関心と問題意識を高め、意欲的に解決しようとする姿勢を育もうとしている。	○	○	○	8
	B. 現代世界の地誌的考察 【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分概念・意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が身に付く。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くための努力ができる。	・第1章現代世界の地域区分 ・第2章現代世界の諸地域 序節 地域の考察方法 1節 中国 2節 韓国 3節 ASEAN諸国 ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習	【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分概念・意義を多面的・多角的に考察している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が見られる。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くため自ら努力しようと考えている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○	○	1

2 学 期	B．現代世界の地誌的考察 【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が身に付く。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くための努力ができる。	・第2章現代世界の諸地域 4節 インド 5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習	【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が見られる。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くため自ら努力しようと考えている。	○	○	○	10
	B．現代世界の地誌的考察 【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が身に付く。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くための努力ができる。	・第2章現代世界の諸地域 7節 EU諸国 8節 ロシア 9節 アメリカ合衆国 ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習	【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が見られる。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くため自ら努力しようと考えている。	○	○	○	18
	定期考査			○	○	○	1
	B．現代世界の地誌的考察 【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が身に付く。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くための努力ができる。	・第2章現代世界の諸地域 10節 ラテンアメリカ 11節 オーストラリアとニュージーランド ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習	【知識及び技能】 ・地域概念や地域区分の意義を理解している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などを理解し、世界各国と日本との関係についても把握している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地域区分の概念・意義を多面的・多角的に考察している。 ・世界各国の歴史的背景、自然環境、文化的特徴、各産業の特色などについて、日本との関係も考えながら、様々な視点より考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地域区分の概念・意義を理解し、それを活用しようとする姿勢が見られる。 ・世界各国と日本との関係を深く考え、より良い関係を築くため自ら努力しようと考えている。	○	○	○	10
	C．現代世界におけるこれからの日本の国土像 【知識及び技能】 現代世界における日本の国土の特色や課題について、多角的で客観的な視点を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 日本が抱える地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果を表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 日本が抱える地理的な諸課題に対する問題意識を高め、意欲的に探求しようとしている。	・第1章持続可能な国土像の探究 ※上記の内容に関する過去の入試問題についての演習 ・地理総合・地理探究全体に関する受験問題演習 ※進度の関係や進路希望によって、指導の順序や配当時間の変更の可能性もある。	【知識及び技能】 現代世界における日本の国土の特色や課題について、多角的で客観的な視点を身に付けようとしている。 【思考力、判断力、表現力等】 日本が抱える地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果を表現できている。 【学びに向かう力、人間性等】 日本が抱える地理的な諸課題に対する問題意識を高め、意欲的に探求しようという姿勢が見られる。	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	受験問題演習	受験問題演習					

[illegible]

高等学校 令和7年度（3学年用）教科

地理歴史科 科目 日本史演習

教科：地理歴史科

科目：日本史演習

単位数：4 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（ A 組：高萩 ）（ B 組：高萩 ）（ C 組：高萩 ）（ D 組：高萩 ）（ E 組：高萩 ）（ F 組：高萩 ）

使用教科書：（日本史探究『詳説日本史』）

教科 地理歴史科

の目標：

【知識及び技能】

日本列島の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】

歴史事象の意味や意義、特色や相互の関連を概念的に理解し、多面的・多角的に考察したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

歴史事象について、主体的に理解しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史演習

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて受験等に対応できる知識を身に付けると共に、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切まとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、問題に解答したり、またそれらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第7章 武家社会の成長 【知識及び技能】 諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。	1 室町幕府の成立 鎌倉幕府の滅亡／建武の新政／南北朝の動乱／守護大名と国人一揆／室町幕府／東アジアとの交易／琉球と蝦夷ヶ島 2 幕府の衰退と庶民の台頭 惣村の形成／幕府の動揺と土一揆／応仁の乱と国一揆／農業の発達／商工業の発達 3 室町文化 文化の融合／動乱期の文化／室町文化の成立／室町文化の展開／庶民文芸の流行／文化の地方普及／新仏教の発展 4 戦国大名の登場 戦国大名／戦国大名の分国支配	【知識・技能】 諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭して村などの自治的な単位が成立したことを理解している。 【思考・判断・表現】 自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	第8章 近世の幕開け 【知識及び技能】 織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 中世から近世への変化について考察し、時代を通観しようとする。	1 織豊政権 近世への転換／銀の交易と鉄砲伝来／キリスト教と南蛮貿易／織田政権／豊臣秀吉の全国統一／土地・身分政策／対外政策と侵略戦争 2 桃山文化 桃山文化／美術と風俗／芸能の新展開／国際的な文化の交流	【知識・技能】 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。 【思考・判断・表現】 豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	○	○	○	20
2 学 期	定期考査			○	○		1
	第9章 幕藩体制の成立と展開 【知識及び技能】 江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。	1 幕藩体制の成立 江戸幕府の成立／幕藩体制／幕府と藩の機構／天皇と朝廷／禁教と寺社／江戸時代初期の外交／鎖国政策／長崎貿易／朝鮮と琉球・蝦夷地／寛永期の文化 2 幕藩社会の構造 身分と社会／村と百姓／町と町人／農業／林業・漁業／手工業・鉱山業／商業 3 幕政の安定 平和と秩序の確立／元禄時代／正徳の政治	【知識・技能】 織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。 【思考・判断・表現】 戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 【知識及び技能】 経済の発展と町人文化について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連して理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展を諸産業相互の関係やその社会的役割を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。	4 経済の発展 農業生産の進展／諸産業の発達／交通の整備と発展／貨幣と金融／三都の発展／商業の展開 5 元禄文化 元禄期の文学／儒学の興隆／学問の発展／元禄美術 1 幕政の改革 享保の改革／田沼時代 2 宝暦・天明期の文化 洋学と国学の発展／尊王論 3 幕府の衰退と近代への道 寛政の改革／鎖国の動揺／天保の改革 4 化政文化	【知識・技能】 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。 【思考・判断・表現】 幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1

3 学 期	受験問題演習	受験問題演習				
						合計
						96

教科：公民 科目：公共

対象学年組：第2学年A組～F組

教科担当：(A組：大沢紘希) (B組：大沢紘希) (C組：大沢紘希) (D組：大沢紘希) (E組：大沢紘希) (F組：大沢紘希)

使用教科書：実教出版 詳述公共

教科 公民科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

科目 公共の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に取り組む態度等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	当
(1)「知識及び技能」 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解できる。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解できる。 ・法や規範の意義及び役割、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解できる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・法、政治などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付け、課題を設定し、説明することができる。 (3)「主体的に取り組む態度等」 ・公共的な空間における基本原理を踏まえて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	・人間の尊厳と平等 ・公正な社会を目指して ・民主主義の成立 ・民主政治の基本原則 ・民主政治の仕組みと課題 ・日本国憲法の成立 ・平等に生きる権利 ・自由に生きる権利① ・公正な裁判の保障 ・人間の尊厳と平等①	(1)「知識及び技能」 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 ・法や規範の意義及び役割、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・法、政治などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付け、課題を設定し、説明している。 (3)「主体的に取り組む態度等」 ・公共的な空間における基本原理を踏まえて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			10
Ⅱ よりよい社会の形成に参加する私たち (1)「知識及び技能」 ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解できる。 ・政治参加と公正な世論の形成、国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解できる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・法、政治及び経済などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付け、課題を設定し、説明することができる。 (3)「主体的に取り組む態度等」 ・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	・社会権と参政権、請求権 ・政治機構と国会 ・行政権と行政機構の拡大 ・政党政治 ・選挙制度 ・世論と政治参加 ・日本国憲法の成立と性格 ・平和主義 ・軍拡競争から軍縮へ ・平和主義とわが国の安全 ・今日の防衛問題 ・人間の尊厳と平等②	(1)「知識及び技能」 ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。 ・政治参加と公正な世論の形成、国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・法、政治及び経済などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付け、課題を設定し、説明している。 (3)「主体的に取り組む態度等」 ・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			10 10
(1)「知識及び技能」 ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持について理解できる。 ・政治参加と公正な世論の形成、地方自治に関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解できる。 ・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などについて理解できる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・法、政治などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付け、課題を設定し、説明することができる。 ・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明できる。 (3)「主体的に取り組む態度等」 ・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	・各国の政治制度 ・新しい人権 ・人権の広がり と公共の福祉 ・生命倫理 ・地方自治と住民福祉 ・人間の尊厳と平等③	(1)「知識及び技能」 ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持について理解している。 ・政治参加と公正な世論の形成、地方自治に関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 ・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・法、政治などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けるている。 ・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明できる。 (3)「主体的に取り組む態度等」 ・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			10

年間授業計画

高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 数学 科目 数学 I

教 科： 数学 科 目： 数学 I 単位数： 3 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A 組：平川）（B 組：岡田）（C 組：平川）（D 組：平川）（E 組：岡田）（F 組：斉木）

使用教科書：（数研出版 NEXT 数学 I）

教科 数学 の目標：

【知 識 及 び 技 能】数学における基本的な概念や、原理・法則を体系的に理解する

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養う

科目 数学 I の目標：

数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 式の計算・実数 【知識及び技能】 式を扱うための基本的な用語や計算方法、数の体系について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 数や式を多面的に見たり、目的に応じた式の変形ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい計算方法や因数分解の方法について、考察する。 既習事項と関連付けて、数の体系を整理し考察する。	・多項式の加法・減法・乗法 ・因数分解 ・実数 ・根号を含む式の計算	【知識・技能】 2 次の乗法公式や因数分解の公式についての理解を深める。 実数について理解し、簡単な無理数の四則計算ができる。 【思考・判断・表現】 工夫することで式の展開を簡略化することができる。式によって適切な方法を判断して因数分解ができる。 実数を数直線上の点の座標として捉えることができる。絶対値を含む方程式や不等式を数直線上の距離の関係として捉えることができる。 場合分けをして絶対値を含む方程式や不等式を解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい因数分解の方法について考察しようとする。	○	○	○	16
	B 1 次不等式 【知識及び技能】 不等式の解の意味や不等式の性質について理解する。 絶対値を含む方程式や不等式が解ける。 【思考力、判断力、表現力等】 不等式の性質をもとに 1 次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象についての問題解決に 1 次不等式を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数学化し、それを解決する。 また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・1 次不等式 ・絶対値を含む方程式・不等式	【知識・技能】 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1 次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 不等式の性質をもとに 1 次不等式を解く方法を考察する。 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1 次不等式を問題解決に活用する。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	10
	C 集合と命題 【知識及び技能】 集合と命題に関する基本的な概念や用語を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 命題に関する基本的な概念を用いて命題を証明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 集合や命題の概念を活用して事象を考察できる。	・集合と条件 ・命題と証明	【知識・技能】 集合と命題に関する基本的な概念を理解する。 【思考・判断・表現】 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明する。 【主体的に学習に取り組む態度】 集合や命題の概念を活用して事象を考察する。	○	○	○	10
	D 2 次関数とグラフ 【知識及び技能】 2 次関数のグラフの特徴について理解し、2 次関数のグラフがかけられる条件から 2 次関数を決定できる。 【思考力、判断力、表現力等】 2 次関数の最大値・最小値をグラフ	・2 次関数のグラフ ・2 次関数の最大・最小 ・2 次関数の決定 ※グラフの指導に 1 台端末を利用する	【知識・技能】 関数の定義を理解し、関数を式で表すことができる。 放物線の軸、頂点などについて理解し、2 次関数のグラフをかくことができる。平方完成ができる。 2 次関数の最大値・最小値を求めることがで				

2 学 期		を用いて求められる。それを様々な事象の考察に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。		きる。 グラフが通る3点がわかっている2次関数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 放物線の平行移動について、頂点の移動に着目して考察できる。 2次関数の軸、定義域と最大値・最小値の関係を正確に理解し、定義域や係数に文字を含む2次関数について、適切に場合分けして最大値・最小値を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。	○	○	○	16
	E 2次方程式と2次不等式 【知識及び技能】 2次方程式、2次不等式が解ける。 【思考力、判断力、表現力等】 2次方程式や不等式の解について考察し、2次関数のグラフとx軸の交点と関連付けて考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、2次方程式・2次不等式を用いて解決しようとする。	・2次方程式 ・2次関数のグラフとx軸の位置関係 ・2次不等式	【知識・技能】 2次方程式を解くことができる。 2次関数のグラフとx軸との共有点の座標を求めることができる。共有点の個数について判別式を用いて考えることができる。 2次の連立不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 2次方程式を、その都度適切な方法を判断して解くことができる。 解がない場合などの特別な場合も含めて、2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができることを理解し、その都度適切な方法を判断し、2次不等式を解くことができる。 2次関数のグラフとx軸の共有点の位置についてグラフを利用して解決できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 2次方程式・2次不等式の解を考察するのに2次関数のグラフを積極的に利用しようとする。 数学の事象や日常生活の事象について、2次不等式を用いて考察しようとする。	○	○	○	15	
	F 三角比 【知識及び技能】 三角比の意味、基本的な性質について理解する。正弦定理、余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺や角、面積を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 三角比を空間図形を含む様々な事象に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 それぞれの定理や三角比の特徴の違いを考察しようとする。	・三角比 ・正弦定理・余弦定理 ・三角形の面積 ・空間図形への活用	【知識・技能】 三角比の定義を理解し、三角比を用いた計量を行うことができる。 正弦定理や余弦定理を適切に用いて、三角形の辺や角を求めることができる。 【思考・判断・表現】 具体的な事象における長さや角度について、三角比を用いて捉え、三角比の値から求めることができる。 正弦定理、余弦定理のうち、適切なものを判断し、種々の量を求めることができる。 三角比を活用して空間図形について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 三角比の相互関係を、三角比の定義や三平方の定理などから導出しようとする。 空間において実際に測れない長さなどを、三角比を活用して求めようとする。	○	○	○	24	
	G データの分析 【知識及び技能】 統計の基本的な考えや種々の統計量、データの散らばりや相関を表す量について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 統計の基本的な考え、種々の統計量、データの散らばりや相関を表す量を用いてデータを分析し、様々な判断ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 範囲や四分位範囲、分散や標準偏差についてそれぞれの長所や短所を理解し、適切な指標を用いてデータの散らばりの度合いを判断しようとする。 変量の変換によって平均値や分散がどのように変わるかを考察しようとする。	・データの整理・代表値 ・データの散らばりと四分位数 ・分散と標準偏差 ・相関係数 ・データの分析を活用した問題解決 ※データの分析の指導に1台端末を利用する	【知識・技能】 データの代表値、四分位数などを求めることができ、箱ひげ図を描くことができる。 分散、標準偏差を求めることができる。 相関係数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 データの分布の仕方やデータの用途によって適切な代表値が異なることを理解し、適切な代表値を選ぶことができる。 データの散らばりの度合いを、範囲・四分位範囲・分散や標準偏差を用いて判断できる。 データを分析することで問題を解決し、その結論および過程について表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 範囲や四分位範囲、分散や標準偏差についてそれぞれの長所や短所を理解し、適切な指標を用いてデータの散らばりの度合いを判断しようとする。 変量の変換によって平均値や分散がどのように変わるかを考察しようとする。	○	○	○	14	
3 学 期								

高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 数学 科目 数学 A

教 科： 数学 科 目： 数学 A 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 A組～ F組

教科担当者：（A組：由良） （B組：平川） （C組：由良） （D組：由良） （E組：平川） （F組：平川）

使用教科書：（ 数研出版 NEXT 数学 A ）

教科 数学 の目標：

【知 識 及 び 技 能】数学における基本的な概念や、原理・法則を体系的に理解する

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養う」

科目 数学 A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A集合 【知識及び技能】 集合に関する基本的な概念や用語を理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 1つの集合を複数の表し方で表現できるようにする。集合の包含関係を記号で正しく表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 3つ以上の集合についても、考察できるようにする。 B 順列 組合せ 【知識及び技能】 和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができるようにする 【思考力、判断力、表現力等】 樹形図を用いて、場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができるようにする 【学びに向かう力、人間性等】 場合の数の基本的な考え方を理解し、それを事象の考察に活用できるような態度を養う。	・集合 ・倍数の個数 ・樹形図 ・和の法則、積の法則	【知識・技能】 集合に関する基本的な用語や集合の要素の表し方を理解している。 和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 1つの集合を複数の表し方で表現することができる。 集合の包含関係を記号や日本語で正しく表現できる。 樹形図を用いて、場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 3つ以上の集合についても共通部分や和集合について考察しようとする。 場合の数の基本的な考え方を理解し、それを事象の考察に活用できる。	○	○	○	8
	C 順列 組合せ 【知識及び技能】 順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できるようにする。組合せの総数を記号で表し、それを活用できるようにする。順列、組合せの総数を考察できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 条件が付く事象を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 順列 組合せの基本的な考え方を理解し、それを事象の考察に活用できるような態度を養う。	・順列の考え方の利用 ・組合せの考え方の利用	【知識・技能】 順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できるようにする。組合せの総数を記号で表し、それを活用できるようにする。順列、組合せの総数を考察できる。 【思考・判断・表現】 樹形図を用いて、場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 順列 組合せの基本的な考え方を理解し、それを事象の考察に活用できる。	○	○	○	
	D確率 【知識及び技能】 確率の定義から、その求め方が分かるようにする。独立試行、反復試行を、具体的な例から直観的にかんがえられるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 試行の結果を集合と結びつけて、事柄の起こりやすさを数量的にとらえられるようにする。条件付き確率の乗法定理の考えを積極的に活用させる。 【学びに向かう力、人間性等】 学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学の良さを探究する態度養う。	・同様に確からしいときの確率 ・独立な試行の確率 ・条件付き確率 ・確率の乗法定理	【知識・技能】 確率の定義から、その求め方が分かるようにする。独立試行、反復試行を、具体的な例から直観的に考えられる。 【思考・判断・表現】 試行の結果を集合と結びつけて、事柄の起こりやすさを数量的にとらえられるようにする。条件付き確率の乗法定理の考えを積極的に活用させる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学の良さを探究できる。	○	○	○	8

2 学 期	A 約数と倍数 【知識及び技能】 約数・倍数の意味を理解させる。倍数の判定法を理解させる。2数の最小公倍数は2数の素因数のすべてを因数とすることを理解させ、それを利用して問題を考察できるようにする 【思考力、判断力、表現力等】 平方数になる条件を、素因数分解の結果から考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとする態度を養う。	・約数と倍数 ・倍数の判定 ・最大公約数・最小公倍数 ・素因数分解	【知識・技能】 約数・倍数の意味を理解している。倍数の判定法を理解している。2数の最小公倍数は2数の素因数のすべてを因数とすることを理解し、それを利用して問題を考察できる 【思考・判断・表現】 平方数になる条件を、素因数分解の結果から考察できる 【主体的に学習に取り組む態度】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとする	○	○	○	13
	Bユークリッドの互除法 【知識及び技能】 互除法の原理を理解させ、互除法を用いて2数の最大公約数を求められるようにする。1次不定方程式、整数解の意味を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとする態度を養う。	・ユークリッドの互除法 ・互除法の活用 ・一次不定方程式	【知識・技能】 互除法の原理を理解させ、互除法を用いて2数の最大公約数を求められる。1次不定方程式、整数解の意味を理解して 【思考・判断・表現】 互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとしている	○	○	○	7
	C 整数の性質の活用 【知識及び技能】 循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表現できるようにさせる。位取り記数法、10進法、2進法、n進法について理解させる。10進法の整数をn進法で表せるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 分数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとする態度を養う。	・分数と有限小数、循環小数の割り算のしくみ ・n進法 ・底の変換 ・n進法の小数	【知識・技能】 循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表現できる。位取り記数法、10進法、2進法、n進法について理解して。10進法の整数をn進法で表せる。 【思考・判断・表現】 分数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を理解して 【主体的に学習に取り組む態度】 整数の整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとしている	○	○	○	5

3 学 期	A 平面図形 【知識及び技能】 線分の内分、外分の基本を理解させる。三角形の外心・内心・重心の定義、性質を理解させる。チェバの定理、メネラウスの定理を理解させる。円周角の定理を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察できるようにする。円と接線と弦の作る角について、場合分けをしながら考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 平面図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用する態度を養う。	・三角形の外心 ・三角形の内心 ・三角形の重心 ・チェバの定理 ・メネラウスの定理 ・円周角の定理 ・円の接線と弦の作る角	【知識・技能】 線分の内分、外分の基本を理解している。三角形の外心・内心・重心の定義、性質を理解している。チェバの定理、メネラウスの定理を理解している。円周角の定理を理解している。 【思考・判断・表現】 図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察できる。円と接線と弦の作る角について、場合分けをしながら考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 平面図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 平面図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとしている。	○	○	○	18
	B 空間図形 【知識及び技能】 空間における2直線の位置関係やなす角を理解させる。正多面体の満たす条件を理解し、正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができるようにする 【思考力、判断力、表現力等】 空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、与えられた条件から考察できるようにする 【学びに向かう力、人間性等】 空間図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用する態度を養う。	・2直線の位置関係 ・直線と平面の位置関係 ・2平面の位置関係 ・正多面体から切り取った立体	【知識・技能】 空間における2直線の位置関係やなす角を理解させる。正多面体の満たす条件を理解し、正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができる。 【思考・判断・表現】 空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、与えられた条件から考察できる 【主体的に学習に取り組む態度】 空間図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用しようとする。	○	○	○	7

年間授業計画

高等学校 令和7年度 (2学年用) 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科： 数学 科目： 数学Ⅱ 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者： (A、B組：金子、齊木、阿久津) (C、D組：金子、阿久津、由良) (E、F組：金子、由良、齊木)

使用教科書： (数研出版 NEXT 数学Ⅱ)

教科 数学 の目標：

(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ の目標：

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡素・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察できるようにする。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	C 複素数と二次方程式の解 【知識及び技能】 数を複素数まで拡張する意義を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用する。	・複素数とその計算 ・二次方程式の解 ・解と係数の関係	【知識・技能】 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすること。 【思考・判断・表現】 2次方程式の解と係数の関係を理解し、使いこなせるようにする。与えられた2数を解にもつ2次方程式が作れる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	9
	D高次方程式 【知識及び技能】 因数定理について因数定理などを用いてその解を求める。 【思考力、判断力、表現力等】 解と係数の関係を理解し、方程式をつくることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、方程式を問題解決に活用する。	・剰余の定理と因数定理 ・高次方程式	【知識・技能】 因数定理を理解し、簡単な高次方程式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 3次方程式の虚数解から係数が求められる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。既習事項を応用し、問題解決に取り組める。	○	○	○	10

2 学 期	E 図形と方程式 【知識及び技能】 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができるようにする。座標平面上の直線や円を方程式で表せることができる。軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 座標平面上の図形について構成要素間構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、図形・方程式を用いて解決しようとする。	・内分点・外分点、二点間の距離 ・直線と円の方程式 ・軌跡と方程式	【知識・技能】 内分点・外分点の公式を理解し、正確に求めることができる。直線の方程式、円の方程式を理解している。 【思考・判断・表現】 点と直線の位置関係を理解し、方程式をつくることができる。軌跡の内容を理解し、条件から方程式をつくることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、軌跡の考え方や、既習事項を応用して、多面的に問題を捉えられる。既習事項を応用し、問題を解くことができる。	○	○	○	21
	F 三角関数 【知識及び技能】 三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと。 【学びに向かう力、人間性等】 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	・三角関数 ・一般角、弧度法 ・三角関数とグラフ ・相互関係 ・加法定理 ・合成	【知識・技能】 三角比の定義を理解し、三角比を用いた計量を行うことができる。 三角比を関数と認識し理解できる、基本的な相互関係を理解している。 【思考・判断・表現】 具体的な事象における長さや角度について、三角比を用いて捉え、三角比の値から求めることができる。加法定理を理解しそこから様々な性質を導ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象を数学的に捉え、応用できる。	○	○	○	27
	F 指数関数・対数関数 【知識及び技能】 指数を正の整数から有理数への拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすること。 指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 対数の意味とその基本性質について理解し、簡単な対数の計算をすること。 【思考力、判断力、表現力等】 指数と対数を相互に関連付けて考察すること。指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	・指数法則 ・指数関数の値の変化とグラフ ・対数の計算 ・指数と対数の相互関係	【知識・技能】 指数の拡張の意義を理解し、指数法則を理解し扱える。グラフについて理解している。 【思考・判断・表現】 指数と対数の相互関係を理解し、扱える。指数関数・対数関数を多面的に捉えられる。また、簡単な対数の計算ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察できる。	○	○	○	18
	G 微分法と積分法 【知識及び技能】 微分係数や導関数についての意味を理解し、導関数を導くことができる。導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形を書く方法を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 関数とその導関数との関係について考察すること。微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察したりすること。	・微分係数・導関数 ・関数の値の増減 ・極大値・極小値 ・関数とその導関数との関係 ・直線と関数のグラフの面積	【知識・技能】 微分係数や導関数の意味を理解し、導関数を導くことができる。増減表を用いてグラフを書くことができる。 【思考・判断・表現】 極大値・極小値を理解し、グラフを書ける。直線及び曲線で囲まれた部分の面積を考察し、値をだせる。 【主体的に学習に取り組む態度】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察し応用できる。	○	○	○	30

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B

教科 数学 科目 数学B 単位数 2 単位

対象学年組 第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者 (A、B組：水野、金子、齊木) (C、D組：水野、齊木、金子) (E、F組：水野、齊木、岡田)

使用教科書 (数研出版 NEXT 数学B)

教科 数学 の目標

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学B の目標

数列および統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 等差数列と等比数列 【知識及び技能】 数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 等差数列、等比数列に関する公式が導出される過程を理解した上で求められるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 等差数列と等比数列の両者を比較しながら理解し、またこれらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする。	・数列と一般項 ・等差数列 ・等差数列の和 ・等比数列 ・等比数列の和	【知識・技能】 一般項から数列の各項、数列の各項から一般項を求めることができる。 等差数列、等比数列の初項から第n項までの和を求めることができる。 【思考・判断・表現】 等差数列、等比数列の一般項について規則をもとにして考察することができる。 等差数列、等比数列の初項から第n項までの和の求め方について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 等差数列、等比数列のそれぞれの規則をもとにして、一般項について考えようとしている。 等差数列、等比数列の初項から第n項までの和の求め方について考えようとしている。	○	○	○	10
	B いろいろな数列 【知識及び技能】 和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 数列の和と一般項の関係を、数列と階差数列の関係と対応させて捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 群数列などのいろいろな数列に興味をもち、一般項や和について考察しようとする。	・和の記号Σ ・階差数列 ・いろいろな数列の和	【知識・技能】 Σについて成り立つ性質を理解し、それを用いて和を求めることができる。 階差数列から数列の一般項が求められる仕組みを理解し、具体的に一般項を求めることができる。 【思考・判断・表現】 1つの和を、Σを用いて様々な方法で表現することができる。 階差数列から一般項を求めるときや、数列の和から一般項を求めるときに、n=1を別に考える必要がある理由について、数値を変えたりして考察し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然数の和の公式を用いて自然数の2乗の和の公式が導けることに興味をもち、自然数の3乗の和の公式を導こうとする。 数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。	○	○	○	16
	C 漸化式と数学的帰納法 【知識及び技能】 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められる。 【思考力、判断力、表現力等】 複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	・漸化式 ・数学的帰納法	【知識・技能】 漸化式の意味を理解し、数列の具体的な項を求めることができる。 数学的帰納法を用いて等式や不等式の証明ができる。 【思考・判断・表現】 複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 一般項による方法以外にも数列の項を定める方法があることに興味をもち、それらの共通点や相違点などを考察しようとする。 様々な命題の証明に数学的帰納法を活用しようとする態度がある。	○	○	○	10

2 学 期	B 等式・不等式の証明 【知識及び技能】 等式の意味や不等式の性質について理解する。 等式、不等式の証明ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 不等式の性質をもとに証明方法を考察したり、具体的な事象についての問題解決に不等式を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数式化し、それを解決する。また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・恒等式の証明 ・条件付きの等式の証明 ・実数の大小関係 ・実数の平方 ・平方の大小関係 ・絶対値を含む不等式の証明 ・相加相乗平均	【知識・技能】 等式・不等式の意味や性質について理解し、証明することができる。 【思考・判断・表現】 不等式の性質をもとに証明方法を考察する。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、不等式を問題解決に活用する。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	5
	D 確率分布 【知識及び技能】 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散などを求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 確率変数の分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	・確率変数と確率分布 ・確率変数の期待値と分散 ・確率変数の和と積 ・二項分布 ・正規分布	【知識・技能】 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 反復試行の結果を二項分布と捉え、記号で表すことができる。 【思考・判断・表現】 確率変数の分散、標準偏差の意味を理解し、分布の特徴について判断することができる。 標準正規分布の期待値、分散について、既知の公式を用いて証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察しようとする。	○	○	○	11
3 学 期	E 統計的な推測 【知識及び技能】 母集団と標本、標本調査について理解し、標本平均の期待値や標準偏差を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 標本平均について、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	・母集団と標本 ・標本平均の分布 ・推定 ・仮説検定	【知識・技能】 母集団分布について理解し、母平均や母標準偏差を求めることができる。 仮説検定の意味を理解し、正規分布を用いた仮説検定ができる。 【思考・判断・表現】 信頼度95%の信頼区間の求め方やその意味をもとに、信頼度99%の信頼区間を求めることができる。また、その意味について信頼区間の幅をもとに説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 母平均や母比率の推定について、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察し、それをもとに実際に適切な推定を行おうとする。	○	○	○	18

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

数学

科目 数学C

教科： 数学

科目： 数学C

単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 A組～ F組

教科担当書： （A、B組：金子、齊木、阿久津） （C、D組：金子、阿久津、由良） （E、F組：金子、由良、齊木）

使用教科書：（数研出版 NEXT 数学C）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】数学における基本的な概念や、原理・法則を体系的に理解する

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養う

科目 数学C

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトルについて、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、数学と人間の活動の関係を理解する力、図形や数値の表現に留意し、それらの性質を統合的・発見的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を明確・的確に表現する力、数理的に考察する力を養う。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や数値の表現に着目し、それらの性質を統合的・発見的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を明確・的確に表現する力、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く果敢に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価、改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A ベクトルとその演算 【知識及び技能】 ベクトルの基本性質を理解すること、平面上のベクトルの和、差、実数倍について理解すること 【思考力、判断力、表現力等】 実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察すること 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・有向成分とベクトル ・ベクトルの加法と減法 ・ベクトルの実数倍と平行 ・単位ベクトル ・ベクトルの分解 ・一次独立	【知識・技能】 平面上のベクトルの意味を理解し、演算ができる。 【思考・判断・表現】 演算法則を理解し、それをベクトルに関連付けられる。ベクトルの平行を理解し、単位ベクトルについて考察できる。どのようなベクトルでも必ず1通りに分解できることを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	13
B ベクトルの成分と内積 【知識及び技能】 ベクトルの成分表示について理解すること。ベクトルの内積及びその基本性質について理解すること 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトルやその内積の基本性質を用いて図形を考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 ベクトルの図形的な意味を理解し、位置ベクトルについて考察できる 【思考力、判断力、表現力等】 平面上の位置ベクトルを用いて図形を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・ベクトルの成分表示 ・ベクトルの内積	【知識・技能】 ベクトルの成分表示を理解し、座標平面上で考察できる。 【思考・判断・表現】 ベクトルの内積を求めることができる。成分表示された内積を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	
C 位置ベクトル 【知識及び技能】 ベクトルの図形的な意味を理解し、位置ベクトルについて考察できる 【思考力、判断力、表現力等】 平面上の位置ベクトルを用いて図形を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・平面上の位置ベクトル ・内分点の位置ベクトル ・外分点の位置ベクトル ・重心の位置ベクトル	【知識・技能】 位置ベクトルを理解し表現できる 【思考・判断・表現】 内分点・外分点の位置ベクトルを理解し表現できる。重心の位置ベクトルを表現できる 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	
D ベクトルの図形への応用 【知識及び技能】 ベクトルの図形的な意味を理解し、3点が一直線上にあることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトルの基本性質を理解し、多面的に考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・一直線上にある点 ・2直線の交点の位置ベクトル ・三角形の重心の位置ベクトル	【知識・技能】 ベクトルの図形的な意味を理解し、3点が一直線上にあることを理解している 【思考・判断・表現】 ベクトルの図形的な意味を理解し、3点が一直線上にあることを理解し、表現できる 三角形の重心について理解し、表現できる 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	13
E 図形のベクトル表示 【知識及び技能】 ベクトル方程式の意味を理解している。媒介変数表示の意味を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトル方程式の意味を理解し、図形を考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・直線のベクトル方程式 ・平面上の点の存在範囲 ・垂直なベクトル ・円のベクトル方程式	【知識・技能】 平面上の直線のベクトル方程式をもとめることができる。 【思考・判断・表現】 方向ベクトル、法線ベクトルを理解し、表現できる。ベクトルの条件で表された点の存在範囲を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	
F 空間図形 【知識及び技能】 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ベクトルやその内積の基本性質などを用いて平面図形や空間図形の性質を見出し、多面的に考察したりすること 【学びに向かう力、人間性等】 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用すること。	・空間の点 ・空間のベクトル ・空間ベクトルの成分表示 ・空間ベクトルの内積 ・ベクトルの空間図形への応用 ・座標空間における図形	【知識・技能】 平面から空間に拡張したことを理解している。平面上の性質を空間に拡張できる。 【思考・判断・表現】 平面上のベクトルの性質を空間でも表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルの考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅲ

教科： 数学 科目： 数学Ⅲ 単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者： (AEF組 阿久津) (BCD組：岡田)

使用教科書：（ 数研出版 NEXT 数学Ⅲ ）

教科 数学 の目標：

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅲ の目標：

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的にりかいますとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 関数 【知識及び技能】 関数を扱うための基本的な用語や定義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 数や式を多面的に見たり、目的に応じた式の変形ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい計算方法や方法について、考察する。 既習事項と関連付けて、数の体系を整理し考察する。	・分数関数 ・無理関数 ・逆関数と合成関数 ・数列の極限 ・級数 ・関数の極限	【知識・技能】 関数についての理解をしている。 関数について理解し、逆関数のしくみを理解している。 数列の公式を理解し、使えるようにする。極限について理解している。 【思考・判断・表現】 工夫することで式の展開を簡略化することができる。式によって適切な方法を判断して極限について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。極限を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	9
	B 極限 【知識及び技能】 三角関数の性質について理解する。 関数の連続性について説明ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 関数の連続性の性質をもとに証明方法を考察したり、具体的な事象についての問題解決に関数を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数学化し、それを解決する。 また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・三角関数の極限 ・関数の連続性	【知識・技能】 関数についての理解をしている。 関数について理解し、逆関数のしくみを理解している。 数列の公式を理解し、使えるようにする。極限について理解している。 【思考・判断・表現】 工夫することで式の展開を簡略化することができる。式によって適切な方法を判断して極限について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。極限を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	9
	C 微分法 【知識及び技能】 微分係数と導関数の意義を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 導関数の計算について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、関数を問題解決に活用する。	・微分係数と導関数 ・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数 ・第n次導関数	【知識・技能】 微分係数と導関数について理解し、微分係数を導出することができる。 【思考・判断・表現】 導関数を理解し、使いこなせるようにする。様々な導関数を作る。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	9
	D微分法の応用 【知識及び技能】 平均値の定理について理解し、簡平均値の定理を利用して問題を考察できる。 【思考力、判断力、表現力等】 接線を理解し、接線の方程式をつくることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、方程式を問題解決に活用する。	・接線の方程式 ・平均値の定理	【知識・技能】 平均値の定理をりようして解くことができる。 【思考・判断・表現】 接線の方程式が求められる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。既習事項を応用し、問題解決に取り組める。	○	○	○	9

2 学 期	E 積分法 【知識及び技能】 積分について理解し、その計算ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 置換積分、部分積分を用いて様々な関数を積分できる。部分積分と漸化式の関係について考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、図形・方程式を用いて解決しようとする。	・不定積分とその基本性質 ・置換積分法 ・部分積分法	【知識・技能】 積分について理解し、計算できる。 【思考・判断・表現】 部分積分、置換積分を活用して、積分できる 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、軌跡の考え方や、既習事項を応用して、多面的に問題を捉えられる。既習事項を応用し、問題を解くことができる。	○	○	○	16
	F 積分法的应用 【知識及び技能】 積分の特徴について理解すること。積分と面積の関係などの基本的な性質を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 積分に関する様々な性質について考察するとともに、グラフで囲まれた面積を導くこと。 【学びに向かう力、人間性等】 積分と面積の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	・面積 ・体積	【知識・技能】 積分と面積の関係を理解し、積分を用いて面積をだせる。 積分を面積の関係を理解できる、基本的な相互関係を理解している。 【思考・判断・表現】 具体的な事象における面積について、関数を用いて捉え、積分の値から求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象を数学的に捉え、応用できる。	○	○	○	15
	G テーマ別演習（復習） 微分法と積分法 【知識及び技能】 微分係数や導関数についての意味を理解し、導関数を導くことができる。導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形を書く方法を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 関数とその導関数との関係について考察すること。微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形的面積を求める方法について考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察したりすること。	・微分係数・導関数 ・関数の値の増減 ・極大値・極小値 ・関数とその導関数との関係 ・直線と関数のグラフの面積	【知識・技能】 微分係数や導関数の意味を理解し、導関数を導くことができる。増減表を用いてグラフを書くことができる。 【思考・判断・表現】 極大値・極小値を理解し、グラフを書ける。直線及び曲線で囲まれた部分の面積を考察し、値をだせる。 【主体的に学習に取り組む態度】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察し応用できる。	○	○	○	15
3 学 期				○	○	○	

高等学校 令和7年度 教科 数学

科目 数学IA演習

教科：数学

科目：数学IA演習（選択）

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（α組：水野 ） （β組：由良 ）

使用教科書：（『NEXT数学I』『NEXT数学A』（数研出版））

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学IA演習		の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析、図形の性質、場合の数と確率、整数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表式グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析する力、不確実な事象に着目し確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	【知識・技能】基本的な概念、用語、記号などを理解し身に付ける。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し問題解決に活用する。	テキスト『シニア数学演習I・II・A・B・C』（数研出版） 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質 基本問題	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	【知識・技能】基本的な概念、用語、記号などを理解し身に付ける。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し問題解決に活用する。	テキスト『シニア数学演習I・II・A・B・C』（数研出版） 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質 *問題	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							3
2 学 期	【知識・技能】基本的な概念、用語、記号などを理解し身に付ける。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し問題解決に活用する。	テキスト『シニア数学演習I・II・A・B・C』（数研出版） 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質 AB問題	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	【知識・技能】基本的な概念、用語、記号などを理解し身に付ける。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し問題解決に活用する。	テキスト『シニア数学演習I・II・A・B・C』（数研出版） 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質 総合演習	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
							3
3 学 期	【知識・技能】基本的な概念、用語、記号などを理解し身に付ける。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し問題解決に活用する。	過去入試問題演習	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。				10
							合計
							58

対象学年組：第 3 学年 選択

教科担当者：水野

使用教科書：（ 数研出版 NEXT 数学Ⅱ、B、C シニア数学演習ⅠⅡABC（ベクトル） ）

教科 数学 の目標：

- （１）数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- （２）数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- （３）数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ、B、C 演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学Ⅱ、B、Cについて、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学Ⅱ、B、Cの基礎・基本を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元 【知識及び技能】 全範囲の基本的性質等を理解し的確に演算等ができること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の基本的性質等を利用して、応用問題を考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	・式と証明 ・複素数と方程式 ・図形と方程式 ・三角関数 ・指数関数 ・対数関数 ・微分法	【知識・技能】 全範囲の基本的性質等を理解し的確に演算等ができる。 【思考・判断・表現】 全範囲の基本的性質等を利用して、応用した問題を考察することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	単元 【知識及び技能】 全範囲の基本的性質等を理解し的確に演算等ができること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の基本的性質等を利用して、応用問題を考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	・積分法 ・数列 ・統計的な推測 ・ベクトル	【知識・技能】 全範囲の基本的性質等を理解し的確に演算等ができる。 【思考・判断・表現】 全範囲の基本的性質等を利用して、応用した問題を考察することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学 期	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	実践問題（大学入試問題等） ・式と証明 ・複素数と方程式 ・図形と方程式 ・三角関数 ・指数関数 ・対数関数 ・微分法	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	実践問題（大学入試問題等） ・積分法 ・数列 ・統計的な推測 ・ベクトル	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
3 学 期	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	大学入試問題	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	6

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅲ演習

教科： 数学 科目： 数学Ⅲ演習 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者： （AEF組：阿久津） （BCD組：岡田）

使用教科書： （ 数研出版 NEXT 数学Ⅲ, 数学C ）

教科 数学 の目標：
（1）数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
（2）数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
（3）数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅲ演習 の目標：

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的にりかいますとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 複素数平面 【知識及び技能】 複素数の極形式を扱うための基本的な用語や定義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 複素数を多面的に見たり、目的に応じた式の変形ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい計算方法や方法について、考察する。 既習事項と関連付けて、数の体系を整理し考察する。	・複素数平面 ・複素数の極形式 ・ド・モアブルの定理	【知識・技能】 複素数についての理解をしている。 極形式について理解し、極形式のしくみを理解している。 極形式の公式を理解し、使えるようにする。 【思考・判断・表現】 極形式にすることで問題を考察することができる。式によって適切な方法を判断して問題について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。複素数を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	20
	B 媒介変数と極座標 【知識及び技能】 媒介変数表示の性質について理解する。 極座標について説明ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 媒介変数を考察したり、具体的な事象についての問題解決に媒介変数表示を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数学化し、それを解決する。 また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・複素数と図形 ・曲線の媒介変数表示 ・極座標と媒介変数表示	【知識・技能】 媒介変数についての理解をしている。 媒介変数について理解し、極座標のしくみを理解している。 極座標から式の内容を考えられる。極座標について理解している。 【思考・判断・表現】 工夫することで直交座標から極座標にすることができる。式によって適切な方法を判断して極座標について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。極限を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	
	D微分法の応用 【知識及び技能】 物理の観点から事象を考察できる 【思考力、判断力、表現力等】 速度、加速度の理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、方程式を問題解決に活用する。	・方程式・不等式への応用 ・速度と加速度 ・近似式	【知識・技能】 微分係数と導関数について理解し、速度、加速度に関連できる。 【思考・判断・表現】 導関数を理解し、超越関数の近似を考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	18
2 学 期	F 積分法の応用 【知識及び技能】 積分の特徴について理解すること。 積分と面積の関係などの基本的な性質を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 積分に関する様々な性質について考察するとともに、放物線の長さを考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 積分と面積の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりする	・道のり ・曲線の長さ	【知識・技能】 積分を利用して長さを出すことができる。 【思考・判断・表現】 曲線の長さが求められる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。既習事項を応用し、問題解決に取り組める。	○	○	○	

教科：保健体育 科目：体育

対象学年組：第1学年A組～F組

教科担当：鈴木 長尾 山田

使用教科書：新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育の目標

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】					
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
単元の具体的な指導目標		指導項目・内容		評価基準		知	思	態	配当 時数
A 体づくり運動 (1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、ことなどをしたり、健康・安全を確保することができるようにする。		・縄跳び ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動		(1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、ことなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。		○	○	○	10
C 陸上競技 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解できるようにする。長距離走では自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、こと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、ことなどをしたり、健康・安全を確保することができるようにする。		・時間走と距離走のタイム トライアル		(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。長距離走では自己に適したペースを維持して走ることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、こと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、ことなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。		○	○	○	10
D 水泳 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解できるようにする。手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、こと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、ことなどをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。		・泳法指導 ・クロール ・平泳ぎ ・背泳ぎ		(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、こと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、ことなどをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。		○	○	○	10
E 球技【サッカー】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、こと、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、こと、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、こと、互いに助け合い高め合おうとし、ことなどや、健康・安全を確保することができるようにする。		・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (3対3・4対4) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解		(1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、こと、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、こと、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、こと、互いに助け合い高め合おうとし、ことなどや、健康・安全を確保したりしている。		○	○	○	12
E 球技【バレーボール】 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解できるようにする。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、こと、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、こと、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、こと、互いに助け合い高め合おうとし、ことなどや、健康・安全を確保することができるようにする。		・基本練習 (パス・レシーブ・サーブ) ・応用練習 (トス・スパイク) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解		(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解している。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、こと、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、こと、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、こと、互いに助け合い高め合おうとし、ことなどや、健康・安全を確保したりしている。		○	○	○	12
F 球技【ソフトボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、こと、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、こと、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、こと、互いに助け合い高め合おうとし、ことなどや、健康・安全を確保することができるようにする。		・基礎練習 (キャッチボール・トスバッティング) ・応用練習 (ピッチング・バッティング・走塁と守備の連携) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解		(1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、こと、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、こと、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、こと、互いに助け合い高め合おうとし、ことなどや、健康・安全を確保したりしている。		○	○	○	10
F 武道【柔道】 (1)「知識及び技能」 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解できるようにする。相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連続技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 柔道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとし、こと、自己の責任を果たそうとし、こと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、ことなどをしたり、健康・安全を確保することができるようにする。		・基本練習と基本動作 ・受け身の基本 (前受身・後受身・横受身・前回り受身) ・投技・寝技・乱取り ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解		(1)「知識及び技能」 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解している。相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連続技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 柔道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとし、こと、自己の責任を果たそうとし、こと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、ことなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。		○	○	○	35
G ダンス (1)「知識及び技能」 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解できるようにする。創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめたりして踊ることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとし、こと、作品や発表などの話し合いに貢献しようとし、こと、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとし、ことなどをしたり、健康・安全を確保することができるようにする。		・リズムカルな動きの基礎 ・グループ創作と発表		(1)「知識及び技能」 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめたりして踊ることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとし、こと、作品や発表などの話し合いに貢献しようとし、こと、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとし、ことなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。		○	○	○	
H 体育理論 (1)「知識」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えられるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができるようにする。		スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展		(1)「知識」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えられる。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。		○	○	○	6
									105

教科：保健体育 科目：保健

対象学年組：第1学年A組～F組

教科担当：(A組：山田) (B組：山田) (C組：長尾) (D組：長尾) (E組：長尾) (F組：山田)

使用教科書：新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配 当 時 数
A 現代社会と健康【健康の考え方】 (1)「知識及び技能」 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・健康課題の変遷 ・健康の考え方と成り立ち ・ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり ・健康に関する意思決定・行動選択	(1)「知識及び技能」 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
B 現代社会と健康【現代の感染症とその予防】 (1)「知識及び技能」 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・現代における感染症の問題 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防	(1)「知識及び技能」 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
C 現代社会と健康【生活習慣病などの予防と回復】 (1)「知識及び技能」 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・生活習慣病の予防と回復 ・身体活動・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康	(1)「知識及び技能」 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
D 現代社会と健康【喫煙、飲酒、薬物乱用と健康】 (1)「知識及び技能」 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康	(1)「知識及び技能」 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
E 現代社会と健康【精神疾患の予防と回復】 (1)「知識及び技能」 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や精神疾患の予防と回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・精神疾患と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の対応	(1)「知識及び技能」 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や精神疾患の予防と回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
D 安全な社会生活【安全な社会づくり】 (1)「知識及び技能」 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要であること。また交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・事故の現状と発生要因 ・交通事故防止の取り組み ・安全な社会の形成	(1)「知識及び技能」 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要であること。また交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、考えたことを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
E 安全な社会生活【応急手当】 (1)「知識及び技能」 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解できるようにする。心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	応急手当の意義と救急医療体制 ・心肺蘇生法 ・日常的な応急手当	(1)「知識及び技能」 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることについて理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当の技能を身につけている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 健康を大切にし、自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
						合計 35

年間授業計画	高等学校	令和7年度(2学年用)	教科	保健体育	科目	体育
教科	保健体育	科目	体育	対象学年組	第2学年A組～F組	
教科担当	作山 鈴木 宮川			使用教科書	新高等保健体育(大修館書店)	
教科	保健体育の目標					
	【知識及び技能】	各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。				
	【思考力、判断力、表現力等】	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。				
	【学びに向かう力、人間性等】	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。				
科目	体育の目標					

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
A 体づくり運動 (1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保することができるようにする。	・縄跳び ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	(1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしたリ、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	8
C 陸上競技 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解できるようにする。長距離走では自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたリ、健康・安全を確保することができるようにす	・時間走と距離走のタイム トライアル	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。長距離走では自己に適したペースを維持して走ることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 長距離走に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたリ、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	8
D 水泳 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解できるようにする。手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたリ、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	・泳法指導 ・背泳ぎ ・バタフライ	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたリ、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	8
E 球技【ハンドボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ハンドボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (4対4・7対7) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ハンドボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	10
E 球技【バドミントン】 (1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解できるようにする。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バドミントンに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基本練習 (クリア・ドライブ・ヘアピン) ・応用練習 (スマッシュ・ドロップショット) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 技術の名称や行い方、体力の高め方運動観察の方法などについて理解している。状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バドミントンに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	10
E 球技【ソフトボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (キャッチボール・トスバツティング) ・応用練習 (ピッチング・バッティング・走塁と守備の連携) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ソフトボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	10
E 球技【バスケットボール】 (1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・基礎練習 (パス・ドリブル・シュート) ・応用練習 (3対3・5対5) ・試合 ・ゲーム及びルールと審判法の理解	(1)「知識及び技能」 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などの攻防をすることができる。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	10
H 体育理論 (1)「知識」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	(1)「知識」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えられる。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	6 70

教科：保健体育 科目：保健

対象学年組：第2学年A組～F組

教科担当：（A組：宮川）（B組：作山）（C組：鈴木）（D組：作山）（E組：鈴木）（F組：宮川）

使用教科書：新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

- 【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
A 生涯を通じる健康 【思春期と健康・性意識の変化と性行動の選択】 ・思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 ・思春期に起こりやすい健康課題について理解する。 ・自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性について理解する。 ・性行動の選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解する。	・思春期と健康 ・性意識の変化と性行動の選択	(1)「知識及び技能」 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
B 生涯を通じる健康 【結婚生活と健康・妊娠計画と健康・家族計画】 ・結婚生活と健康との関係について理解する。 ・結婚生活における夫婦関係、親子関係による健康への影響について理解する。 ・受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。 ・家族計画の意義について理解する。 ・人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解する。	・結婚生活と健康 ・妊娠計画と健康 ・家族計画	(1)「知識及び技能」 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
C 生涯を通じる健康 【加齢と健康・高齢社会に対応した取り組み】 ・加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。 ・若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。 ・高齢社会における健康課題について理解する。 ・高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解する。	・加齢と健康 ・高齢社会に対応した取り組み	(1)「知識及び技能」 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもちこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
D 生涯を通じる健康 【働くことと健康・労働災害の防止・働く人の健康づくり】 ・働くことの意義と働き方の多様化について理解する。 ・働く人における健康問題について理解する。 ・労働環境の変化に伴い、労働災害の要因も変化していることを理解する。 ・労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。 ・職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動について理解する。 ・働く人の健康には余暇の活用など生活の質の向上も重要であることを理解する。	・働くことと健康 ・労働災害の防止 ・働く人の健康づくり	(1)「知識及び技能」 ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
E 健康を支える環境づくり 【大気汚染と健康・水質汚濁・土壌汚染と健康】 ・大気汚染による健康への影響について理解する。 ・地球規模で起きている大気環境の問題について理解する。 ・水質汚濁による健康への影響について理解する。 ・土壌汚染による健康への影響について理解する。	・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康	(1)「知識及び技能」 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
D 健康を支える健康づくり 【健康被害を防ぐための環境対策・環境衛生に関わる活動】 ・環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策について理解する。 ・産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の課題について理解する。 ・安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題について理解する。 ・生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解する。	・健康被害を防ぐための環境対策 ・環境衛生に関わる活動	(1)「知識及び技能」 健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
E 健康を支える健康づくり 【食品の安全性と健康・食品の安全性を確保する取り組み】 ・食品の安全性が損なわれると健康被害が生じる可能性があることを理解する。 ・人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。 ・食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割について理解する。 ・食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解する。	・食品の安全性と健康 ・食品の安全性を確保する取り組み	(1)「知識及び技能」 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
E 健康を支える健康づくり 【保健制度とその活用・医療制度とその活用・医薬品の制度とその活用】						

・保健行政の役割について理解する。 ・健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解する。 ・医療保険の仕組みについて理解する。 ・医療サービスの適切な活用方法について理解する。 ・医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。 ・医薬品は、使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解する。	・保健制度とその活用 ・医療制度とその活用 ・医薬品の制度とその活用	(1)「知識及び技能」 我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性及び安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
E 健康を支える健康づくり【様々な保健活動や対策・誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり】 ・日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることを理解する。 ・国際機関や民間機関などにより行われている様々な保健活動や対策について理解する。 ・自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることを理解する。 ・健康を支える環境づくりへの積極的な参加が自他の健康につながることを理解する。	・様々な保健活動や対策 ・誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	(1)「知識及び技能」 我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている (2)「思考力・判断力・表現力等」 様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4 35

高等学校 令和7年度(3学年用) 教科 保健体育 科目 スポーツⅡ

教科：保健体育 科目：体育
対象学年組：第3学年A組～F組
教科担当：作山 宮川

使用教科書：新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

- 【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 スポーツⅡの目標

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】			
スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。		スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。			
単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価基準			配当 時数
体づくり運動 (1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保することができるようにする。		・ニュースポーツ ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	(1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。			○ ○ ○ 16
スポーツⅡ (1)「知識及び技能」 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けられるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うことができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養うことができるようにする。		1・2年生で経験した種目(施設の関係で変更あり)	(1)「知識及び技能」 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度が身につけている。			○ ○ ○ 54

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度 教科

芸術

科目 音楽Ⅰ

教 科： 芸術

科 目： 音楽Ⅰ

単位数：

単位 2

対象学年組：第 1 学年 A 組～ F 組

教科担当者： 片野響子

使用教科書：（ MOUSA1 （教育芸術社）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現する ための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることが できるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や 社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅰ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深める。	音楽を形づくっている要素と要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもち、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴く。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	「正しい発声を身に付けて、豊かな響きで歌おう」 歌うときの基本的な姿勢や呼吸、発声などの技能を身に付け、歌詞の内容を理解し、自己のイメージをもって曲想にふさわしい発声で表現を工夫して歌う。 バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を身に付け、曲想と歌詞との関わり、旋律の特徴、言葉の抑揚を理解し、自己のイメージをもって表現を創意工夫して歌う。	「校歌」「旗幟ないで」「Lesson」「手紙」など 一人一台端末を活用	○			○	【知識及び技能】曲想と歌詞との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした歌唱表現するために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】音色、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】正しい発声を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	「表現を工夫してギターを演奏しよう」 ギターの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	ギターの基本的奏法、コード指板、「ハッピーバースデー」「トゥーユー」「日曜日の使者」ほか。 曲にふさわしい奏法、身体を使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付けさせる。 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解させる。 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きや奏法などを実践錯誤しながら表現を工夫させる。一人一台端末を活用。		○		○	【知識及び技能】曲想とギターの音色や奏法との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした楽器表現するために必要な、曲にふさわしい奏法、身体を使い方などの技能を身に付け、楽器で表している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】曲想とギターの音色や奏法との関わりに関心をもち、主体それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わり、協働的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	「J-POPや歌謡曲の特徴を理解し鑑賞しよう」 J-POPや歌謡曲を取り上げ、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、自分や社会と音楽との関わりを考える	「私の音楽」毎時間、2曲ずつ生徒が選曲した楽曲を鑑賞し、曲について調べたり意見を交換したりして曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考えさせる。 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きや奏法などを聴き取らせる。一人一台端末を活用				○	【知識及び技能】音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【学びに向かう力、人間性等】さまざまな音楽や音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	「表現を工夫して鍵盤楽器を演奏しよう」 ピアノのコード伴奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	コード伴奏法指導、「日曜日の使者」ほか。 曲にふさわしい奏法、身体を使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付けさせる。 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解させる。 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きや奏法などを実践錯誤しながら表現を工夫させる。一人一台端末を活用。		○			【知識及び技能】文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【学びに向かう力、人間性等】さまざまな音楽や音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	「表現を工夫して合唱をしよう」 バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を身に付け、曲想と歌詞との関わり、旋律の特徴、言葉の抑揚を理解し、自己のイメージをもって表現を創意工夫して歌う。	合唱アカペラ楽曲（3部または4部アカペラ） 曲にふさわしい発声方法を身に付け、互いの声部を聴かせる。一人一台端末活用	○				【知識及び技能】曲想と歌詞との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした歌唱表現するために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】音色、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】正しい発声を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4
2 学 期	「さまざまな音楽アンサンブルを楽しもう」ギター、ピアノ、弾き語りを通し様々な音色の重なりを工夫する。	弾き語りの伴奏を創作し発表 一人一台端末活用	○	○	○	○	【知識及び技能】文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【学びに向かう力、人間性等】さまざまな音楽や音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	「音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう」さまざまな楽器が生み出す響きやその特徴が、どのような要素やそれらの働きによってもたらされているのかを探るとともに、音楽のよさや美しさを味わう。	「西洋音楽の流れ」/「オーケストラを知ろう」一人一台端末活用				○	【知識及び技能】文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【学びに向かう力、人間性等】さまざまな音楽や音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	「表現を工夫してヴォイスアンサンブルをしよう」 バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を身に付け、曲想と歌詞との関わり、旋律の特徴、言葉の抑揚を理解し、自己のイメージをもって表現を創意工夫して歌う。	生徒選曲の楽曲を使用しアカペラヴォイスアンサンブルの発表。一人一台端末活用	○				【知識及び技能】曲想と歌詞との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした歌唱表現するために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】音色、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【学びに向かう力、人間性等】正しい発声を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	「作曲家の生涯と作品をたどろう」 J.S. バッハやW.A. モーツァルトの生涯をたどらながら、それぞれの作品の特徴を理解し、魅力を味わう	作品を鑑賞したり、作曲家について調べたり、意見を交換したりしながら、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う				○	【知識及び技能】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことに感じたこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【学びに向かう力、人間性等】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。	○	○	○	4

[illegible]

高等学校 令和7年度 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 音楽Ⅱ 単位数： 単 位 2

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者： 片野響子

使用教科書：（ MOUSA2 （教育芸術社） ）

教科 芸術 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現する ための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることがで きるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や 社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深める。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したごとと感受したごととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもち、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴く。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心 情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創	鑑賞					
1 学 期	ピアノ初心者 バイエル ピアノ経験者 保育音楽弾き歌 楽典・音大受験実技指導	ピアノ初心者 バイエルを通じ基本的なピアノの奏法を覚える ピアノ経験者 保育音楽の弾き歌いをピアノで行い、より多くの楽曲に触れる	○	○	○	○	評価の観点：技術の向上に熱心に取り組んでいるか、姿勢、指使い、音間違いないか、適正な表現をしているかななどを個々の技術に応じて指導、成長具合について評価する。	○	○	○	26
2 学 期	ピアノ初心者 バイエル ピアノ経験者 保育音楽弾き歌 楽典・音大受験実技指導	ピアノ初心者 バイエルを通じ基本的なピアノの奏法を覚える ピアノ経験者 保育音楽の弾き歌いをピアノで行い、より多くの楽曲に触れる	○	○	○	○	評価の観点：技術の向上に熱心に取り組んでいるか、姿勢、指使い、音間違いないか、適正な表現をしているかななどを個々の技術に応じて指導、成長具合について評価する。	○	○	○	28
3 学 期	ピアノ初心者 バイエル ピアノ経験者 保育音楽弾き歌 楽典・音大受験実技指導	ピアノ初心者 バイエルを通じ基本的なピアノの奏法を覚える ピアノ経験者 保育音楽の弾き歌いをピアノで行い、より多くの楽曲に触れる	○	○	○		評価の観点：技術の向上に熱心に取り組んでいるか、姿勢、指使い、音間違いないか、適正な表現をしているかななどを個々の技術に応じて指導、成長具合について評価する。	○	○	○	16

科目 美術 I

单位数： 2 单位

使用教科書：（美術Ⅰ 38光村 美Ⅰ701 光村図書出版）

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】作品制作を通し 美術の面白さを認識し自分と向き合い自己を高める力を身に着ける

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
			絵・ 彫	デ	映							
1 学 期	自己の観察を通じ自分の特徴を発見し自分らしさとは何かを考え、自分を見つめ直す機会とする	・ 絵画（鉛筆デッサン） 自画像 ・ 参考作品の鑑賞	○			○	・ 観察力・鉛筆の使い方を生かした表現 ・ 鉛筆デッサンの方法 ・ 描き込み		○	○	○	4
	鉛筆デッサンの手順と立体感、材質感の表現方法を学ぶ	・ 自分らしさをポーズや背景、物で表現する ・ 自然なグラデーションの表現	○	○		○	・ ポーズや背景などの画面の構合力 ・ 丁寧さ		○	○	○	6
	身近な素材の紙のモチーフにも美しさの要素がある事を発見する	・ シワシワにもんだ紙の鉛筆デッサン ・ デザイン（紙のデッサンから発想した形）	○			○	・ もんだ紙の鉛筆デッサン ・ 観察力 ・ 紙のシワ、材質感の表現		○	○	○	6
	偶然出来た形を基にオリジナルな発想力を身に着ける	・ 紙のデッサンから発想した形を基に発展させた画面構成を行う ・ 透明水彩絵の具で彩色する		○		○	・ 描き込み ・ 透明水彩絵の具の特性を生かした表現		○	○	○	6
	2 学 期	ウッドトシートの素材特性を活かした制作を行う	工芸（額付きウッドシート） ・ ウッドシートの特性を活かした図案を考える	○	○		○	・ ウッドトシートの特性を活かした図案制作 ・ 丁寧な作業を積み重ねる		○	○	○
ウッドトシート用額縁の機能を知り完成したウッドトシートと総合的に作品内容を高める額縁の図案を考える。		・ ウッドシート用の額縁制作		○			・ 額縁のデザインがウッドシートを引き立たせている		○	○	○	11
3 学 期	木彫の彫りの技術を学び彫刻刀の基本的な使い方を身に着ける	木彫（ウッドシート用の額縁） ・ 浮き彫りの手順	○				・ 浮き彫りの制作効果、材料や用具の特性を活かして創造的に制作している		○	○	○	8
	ウッドトシート用額縁の機能を知り完成したウッドトシートと総合的に作品内容を高める作業を行う。	彫りから磨き、塗装、組み立ての作業を丁寧に積み重ね作品を完成させる	○			○	・ 作業手順を理解し丁寧に作業している		○	○	○	8
											合 計	60

單位數： 2 單位

使用教科書：（美術Ⅱ 38光村 美Ⅱ303

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】作品制作を通し 美術の面白さを認識し美術と向き合い自己を高める力を身に着ける。

の目標：

[illegible]

調布南 高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科

芸術 科目 書道Ⅰ

教 科： 芸術 科 目： 書道Ⅰ

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 A・C・E 組

教科担当者： （A組：斉藤美 ） （C組：斉藤美 ） （E組：斉藤美 ）

使用教科書： （ 書道Ⅰ 東京書籍 ）

教科 芸術 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			漢 仮	漢	仮						
1 学 期	書写から書道へ 【知識及び技能】 ・書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 ・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。 ・書写能力を向上させるとともに、目的や用途に即した効果的な表現の技能を身につける。 【思考力・判断力・表現力等】 ・書写で学習した基本的な用筆・運筆、字形、全体構成について構想し工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・芸術科書道への関心・意欲を高め、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	・指導事項 書道の授業について 書写の学習を思い出して ・教材→教科書・書道用具 等		○	○	【知識・技能】 ●知識 共通事項 書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。 ●技能 書写能力を向上させるとともに、目的や用途に即した効果的な表現の技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 【表現・鑑賞】書写で学習した基本的な用筆・運筆、字形、全体構成について構想・工夫し、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 芸術科書道の学習に関心をもち、書道で学習することや、国語科書写で学習した内容に関心をもち、主体的に取り組んでいこうとする態度を養っている。		○	○	○	4
	漢字の書(楷書) 【知識及び技能】 ・古典の書体や書風と用筆・運筆との関わり、用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷について理解する。 ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 【思考力・判断力・表現力等】 ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	・指導事項 漢字の書(楷書) 「牛欄造像記」他 ・教材→教科書・書道用具 等		○	○	【知識・技能】 ●知識 共通事項 【表現】古典の書体や書風と用筆・運筆との関わり、用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷について理解している。 ●技能 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考・判断・表現】 【表現】古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 【表現】主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		○	○	○	12
	漢字の書(行書) 【知識及び技能】 ・古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。 ・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 【思考力・判断力・表現力等】 ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	・指導事項 漢字の書(行書) 「蘭亭序」他 ・教材→教科書・書道用具 等		○	○	【知識・技能】 ●知識 共通事項 【表現】古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【鑑賞】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ●技能 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考・判断・表現】 【表現】古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【鑑賞】行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 【表現】主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【鑑賞】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		○	○	○	8

2 学 期	漢字の書(行書) 上記「漢字の書(行書)」参照	・指導事項 漢字の書(行書) 「蘭亭序」他 ・教材→教科書・書道用具 等	○	○	上記「漢字の書(行書)」参照	○	○	○	8
	篆刻 【知識及び技能】 ・古典の書体や書風と用筆・運筆との関わり、篆刻の用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。 ・篆書の古典の基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 ・篆刻の技法を理解し、運刀の基礎を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・篆刻の技法を学び、意図に基づいて表現を構想し工夫する。 ・生活や社会における書の効用について考え、書を立体化することによる刻線のよさや美しさを味わって捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	・指導事項 漢字の書(篆書) 「泰山刻石」 篆刻 ・教材→教科書・書道用具 等	○	○	【知識・技能】 ●知識 共通事項 〔表現〕古典の書体や書風と用筆・運筆との関わり、篆刻の用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ●技能 篆書の古典の基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 篆刻の技法を理解し、運刀の基礎を身につけている。 【思考・判断・表現】 〔表現〕篆刻の技法を学び、意図に基づいて表現を構想し工夫している。 〔鑑賞〕生活や社会における書の効用について考え、書を立体化することによる刻線のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〔表現〕主体的に篆刻の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に篆刻の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	9
	仮名の書 【知識及び技能】 ・線質や書風と用筆・運筆との関わり、用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 ・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	・指導事項 仮名の基本 「蓬莱切」他 ・教材→教科書・書道用具 等	○	○	【知識・技能】 ●知識 共通事項 〔表現〕線質や書風と用筆・運筆との関わり、用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 ●技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 〔表現〕仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 〔鑑賞〕仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〔表現〕主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	9
3 学 期	漢字仮名交じり書・くらしの中の書 【知識及び技能】 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解する。 ・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。 ・創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	・指導事項 漢字仮名交じり書 くらしの中の書 ・教材→教科書・書道用具 等	○	○	【知識・技能】 ●知識 共通事項 〔表現〕用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解している。 ●技能 目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 〔表現〕漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 〔鑑賞〕創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〔表現〕主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	漢字の書(楷書) 上記「漢字の書(楷書)」参照	・指導事項 漢字の書(楷書) 「自書告身」他 ・教材→教科書・書道用具 等	○	○	上記「漢字の書(楷書)」参照	○	○	○	12
									合計 70

【共通事項】

- ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。
- ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。

高等学校 令和 7年度 教科 外国語 科目 English Communication I

教科：外国語 科目：English Communication I 単位数：3 単位

対象学年組：第 1 学年 組～ 組

教科担当者：（A組： 内海 ）（B組： 秦 ）（C組： 近藤 ）（D組： 内海 ）（E組： 秦 ）（F組： 近藤 ）

使用教科書：（ ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】実際の英語コミュニケーションにおいて、目的、場面、状況に応じて適切に活用できる技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】日常的な話題や社会的な話題について、その情報や考えなどの概要や要点を的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりする力を養

【学びに向かう力、人間性等】英語の背景にある文化への理解を深め、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 English Communication I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 ・必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を育成する。	・英語の基礎的な知識や技能を最大限活用しながら、思考力・判断力・表現力を土台にコミュニケーション能力の養成を図る。 ・対話の展開などにおいて基本的な語句や文を用いて、情報や考え気持などを話して伝えることができるようにする。	・グローバル社会の中で必要とされる国際理解での広い視野を養う。 ・主体的な深い学びを促進し、生徒自らが学びに向かう力を育成する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 （や）	話 （発）	書					
1 学 期	Unit 1 What can happen in one second?	〔題材内容〕 学校新聞の記事などを通して、1秒間に世界で起っていることについて学ぶ。 〔言語材料〕 受け身／不定詞／動名詞 〔言語活動〕 1秒間にどのように世界が変化しているかを説明する。 〔言語の働き〕 聞き直す／回答する	○	○	○	○	○	〔知識〕 ・受け身、不定詞、動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・疑問詞やつなぎ言葉について、プレゼンテーションのスタイルに対応した適切な用法を理解している。 〔技能〕 疑問詞やつなぎ言葉などを用いて、身のまわりや世界で起きている話題について、聞き手へ問いかけたり、理由や根拠を示すなどしたりしながら、自分の考えや気持ちを話して伝える技能を身に付けている。 情報伝達型プレゼンテーションの場面で、身のまわりや世界で起きている話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話して伝えている。 情報伝達型プレゼンテーションの場面で、身のまわりや世界で起きている話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話して伝えようとしている。	○	○	○	8
	定期考査								○	○	○	
	Unit 2 What do superstitions mean to you?	〔題材内容〕 機内誌の記事などを通して、さまざまな国や地域で信じられている迷信について学ぶ。 〔言語材料〕 助動詞＋受け身／現在完了進行形 〔言語活動〕 迷信についての自分の価値観を述べる。 〔言語の働き〕 驚く／興味や関心を表す	○	○	○	○	○	〔知識〕 ・助動詞＋受け身、現在完了進行形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・条件節と帰結節を用いて、要点を書いたり、具体例を提示したりしながら物事を描写する方法を理解している。 〔技能〕 条件節と帰結節などを用いて、迷信や信念について、読み手が誰であるかを意識しながら、要点を書いたり、具体例を提示したりする技能を身に付けている。 ラッキーアイテムを紹介するために、身のまわりの迷信や信念について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、読み手を意識して要点や具体例を書いている。	○	○	○	8
	Unit 3 How can we promote sustainability	〔題材内容〕 Eメールのやり取りなどを通して、ゼロ・ウェイスト政策について学ぶ。 〔言語材料〕 分詞の形容詞用法／関係代名詞 〔言語活動〕 世界中で人々がどのようにごみに関する問題に取り組んでいるかを説明する。 〔言語の働き〕 誘う／断る	○	○	○	○	○	〔知識〕 ・分詞の形容詞用法や関係代名詞（省略の形を含む）を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・フォーマルな文体でEメールを書き、目的を伝えたり質問をしたりする方法を理解している。 〔技能〕 分詞の形容詞用法や関係代名詞（省略の形を含む）などを用いて、フォーマルな文体で、目的を伝えたり質問をしたりする技能を身に付けている。 フォーマルなEメールを書く場面で、環境保全に関する内容について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、読み手を意識して目的を伝えたり質問内容を書いたりしている。 フォーマルなEメールを書く場面で、環境保全に関する内容について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、読み手を意識して目的を伝えたり質問内容を書いたりしようとしている。	○	○	○	8
	定期考査									○	○	○
	Unit 4 What can we learn from native Hawaiians?	〔題材内容〕 博物館のパンフレットなどを通して、ハワイ語やハワイ文化の歴史について学ぶ。 〔言語材料〕 現在完了形の受け身／過去完了形 〔言語活動〕						〔知識〕 ・現在完了形の受け身、過去完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・事実と意見を分けたり、ポイントを絞って伝えたりするなど、スピーチのスタイルに対応した適切な方法を理解している。 〔技能〕				

2 学 期		自分にとって大切な言葉や文化について述べる。 〔言語の働き〕 迷いを伝える／アドバイスする	○	○	○	○	○	身のまわりの言葉や文化に関する話題について、事実や意見を分けたり、ポイントを絞ったりしながら、自分の考えや気持ちを話して伝える技能を身に付けている。 スピーチの場面で、身のまわりの言葉や文化に関する話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話して伝えている。 スピーチの場面で、身のまわりの言葉や文化に関する話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話して伝えようとしている。	○	○	○	8
	Unit 5 Why do people tell each other stories?	〔題材内容〕 ウェブの記事などを通して、自分が体験したことを聞き手に語る際の秘訣を学ぶ。 〔言語材料〕 SVOC〔分詞〕／関係副詞how／助動詞の過去形 〔言語活動〕 互いに話を伝え合う理由を述べる。 〔言語の働き〕 心配事を伝える／援助を申し出る	○	○	○	○	○	〔知識〕 ・SVOC〔分詞〕、関係副詞how、助動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・体験談を伝えるために、適切な表現や方法を理解している。 〔技能〕 体験談を伝える際の表現や方法を用いて、身のまわりの出来事について、聞き手を引き付けながら、わかりやすく自分の考えや気持ちを話して伝える技能を身に付けている。 スピーチの場面で、身のまわりの出来事について、体験した内容を基に、聞き手を引き付けながら、わかりやすく自分の考えや気持ちを話して伝えている。 スピーチの場面で、身のまわりの出来事について、体験した内容を基に、聞き手を引き付けながら、わかりやすく自分の考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	8
	Unit 6 What are the qualities of a good leader?	〔題材内容〕 オンライン百科事典の伝記などを通して、優れたリーダーシップをもつ人物の経歴を学ぶ。 〔言語材料〕 分詞構文／関係副詞where 〔when/why〕 〔言語活動〕 優れたリーダーが備えている資質を説明する。 〔言語の働き〕 返答する／相づちを打つ	○	○	○	○	○	〔知識〕 ・分詞構文、関係副詞where〔when/why〕を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・リーダーシップに関連した語いや表現を用いるなどして、人物の略歴を紹介する適切な方法を理解している。 〔技能〕 ある人物について、時系列で書いたり、略歴を紹介したりしながら、関連のある情報を簡潔かつ正確に原稿に書く技能を身に付けている。 ある人物を紹介するために、関連のある情報を時系列で書いたり、略歴を紹介したりして、読み手を意識しながら簡潔かつ正確に紹介文を書いている。 ある人物を紹介するために、関連のある情報を時系列で書いたり、略歴を紹介したりして、読み手を意識しながら簡潔かつ正確に紹介文を書こうとしている。	○	○	○	8
3 学 期	Unit 7 Where will you live in the future?	〔題材内容〕 英字新聞の記事などを通して、今住んでいる場所を選んだ理由やそこでの暮らしの魅力について学ぶ。 〔言語材料〕 原形不定詞／仮定法過去完了／過去完了進行形 〔言語活動〕 人々がどのような理由で住む場所を決めているのかを説明する。 〔言語の働き〕 反論する／同意する	○	○	○	○	○	〔知識〕 ・原形不定詞、仮定法過去完了、過去完了進行形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・場所に関連した語いや表現を用いるなどして、将来住みたい場所についてのエッセイを書く適切な方法を理解している。 〔技能〕 将来住みたい場所についてのエッセイを書くにあたり、パラグラフの構成を意識して書いたり、本論で理由を具体例とともに述べたりしながら、首尾一貫性のある原稿を書く技能を身に付けている。 将来住みたい場所についての主張を展開するために、パラグラフの構成を意識して書いたり、本論で理由を具体例とともに述べたりして、読み手を意識しながら首尾一貫性のある原稿を書いている。 将来住みたい場所についての主張を展開するために、パラグラフの構成を意識して書いたり、本論で理由を具体例とともに述べたりして、読み手を意識しながら首尾一貫性のある原稿を書こうとしている。	○	○	○	8
	Unit 8 How do cultures and traditions affect teens' lives?	〔題材内容〕 ウェブの記事などを通して、世界中のさまざまな成人の儀式について学ぶ。 〔言語材料〕 関係代名詞what／関係代名詞の非制限用法 〔言語活動〕 日常生活について、外国のティーンエイジャーと自分との類似点や相違点を説明する。 〔言語の働き〕 習慣を表す／共感する	○	○	○	○	○	〔知識〕 ・関係代名詞what、関係代名詞の非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・プレゼンテーションの場面で、外国の高校生の日常生活について、自分の生活との類似点や相違点に触れながら、その概要を伝える適切な表現や方法を理解している。 〔技能〕 ・プレゼンテーションの場面で、外国の高校生の日常生活について、自分の生活との類似点や相違点に触れながら、その概要を伝える技能を身に付けている。 ・メモを活用して、プレゼンテーションを行う技能を身に付けている。 プレゼンテーションの場面で、外国の高校生の日常生活について、自分の生活との類似点や相違点に触れながら、メモを活用して、その概要をわかりやすく話して伝えている。 プレゼンテーションの場面で、外国の高校生の日常生活について、自分の生活との類似点や相違点に触れながら、メモを活用して、その概要をわかりやすく話して伝えようとしている。	○	○	○	7 合計 71

高等学校 令和7年度（1学年用）教科

外国語

科目 論理・表現Ⅰ

教科： 外国語

科目： 論理・表現Ⅰ

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組～ F 組

教科担当者： （ AB組： 小林・近藤・秦）

（ CD組： 近藤・澤田・秦 ）

（ EF組：小林・澤田・秦）

使用教科書： （ Genius English Logic and Expression I Advanced （ 数研出版 ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】	外国語の音声や読解・表現、文法、言語の働きなどについて理解を深める力を養う。またそれらを、4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける力を養う。
【思考力、判断力、表現力等】	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えたりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力を養う。

科目 論理・表現Ⅰ の目標： 養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の特徴やきまりに関する事項、対話の展開の仕方や論理構成について理解できる。実際のコミュニケーションにおいて、多くの支援を活用すれば、日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うことができる。また聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理構成や展開を工夫して話して伝える技能を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら主体的に英語の4技能を用いて伝える力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	「 」 や話	「 」 発話	書					
1 学 期	Unit 1 Introducing Yourself Unit 2 Talking about a Family Member or Friend Unit 3 Talking about Your School	【題材】自己紹介 家族や友人を学校を紹介する 【言語材料】 文型SV, SVC, SVO, SVOO, SVOOther 構文 現在形、現在進行形、過去形、過去進行形 【言語活動】 自己や他者、身の回りのことを紹介	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	6
	Unit 4 Making Plans for the Weekend Unit 5 Sharing Experiences Unit 6 Learning Your Way around at School	【題材】 思い出や学校のルールなど身の回りのことを伝える、説明する 【言語材料】 未来を表す表現、助動詞（can, may, must, will, should, ought to） 【言語活動】 他者に自分の思い出や自身の所属している学校のルールなどを適切に説明する	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	6
	Unit 7 Looking Back Unit 8 Recommending the Perfect Place to Go	【題材】 過去を振り返る、おすすめスポット 【言語材料】 助動詞（used to, would, had better, 〈助動詞＋have＋過去分詞〉）、受動態 【言語活動】 過去の出来事を振り返り、まとめる おすすめスポットを観光客に説明する	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	4
2 学 期	Unit 9 Staying Healthy Unit 10 Thinking about Your Future Unit 11 Japanese Educational Practices	【題材】 健康問題の解消策、進路の決め方、日本の学校習慣 【言語材料】 不定詞、動名詞 【言語活動】 自身の悩みなどについて考えをまとめ他者に伝える 日本の学校の習慣を多文化の人に伝える	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	10
	Unit 12 School Events Unit 13 Better Choices Unit 14 A Person You Look up To Unit 15 Extracurricular Activities	【題材】 学校行事 より良い選択 尊敬する人 課外活動 【言語材料】 分詞 比較表現 関係代名詞 関係副詞 【言語活動】 生徒の行事の様子を描写する 与えられた条件での選択を、複数のものを比較しながら検討する 尊敬する人のことを具体的に説明する	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	12
	Unit 16 What Can We Do to Save Resources? Unit 17 What If It Had Never Happened? Unit 18 How Can We Protect the Earth? Unit 19 Can Technology Make the World a Better Place? Unit 20 What Do You Like about Japanese Culture?	【題材】 資源の保全 印象的な出来事 環境問題 科学技術 日本文化 【言語材料】 仮定法過去・過去完了、接続詞、名詞構文・無生物主語構文 【言語活動】 環境問題、科学関連などの専門性のある内容を説明し理解する。 自身の体験や自分の文化について他者に説明する。	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	16 合計 54

年間授業計画																
高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 外国語 科目 English Communicaiton II																
教 科： 外国語		科 目： English Communication II		単位数： 4		単 位										
対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組																
教科担当者：（ A組：小林 ）（ B組：加藤 ）（ C組：伊藤 ）（ D 組：加藤 ）（ E組：伊藤 ）（ F 組：小林 ）																
使用教科書：（ CREATIVE English Communication II ）																
教科 外国語		の目標：														
【知 識 及 び 技 能】		実際の英語コミュニケーションにおいて、目的、場面、状況に応じて適切に活用できる技能を習得する。														
【思考力、判断力、表現力等】		日常的な話題や社会的な話題について、その情報や考えなどの概要や要点を的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。														
【学びに向かう力、人間性等】		英語の背景にある文化への理解を深め、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。														
科目 English Communication II		の目標：														
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【学びに向かう力、人間性等】											
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。			外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。											
		単元の具体的な指導目標		指導項目・内容		領域			評価規準		知	思	態	配 当 時 数		
						聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書						
1 学 期	Lesson1 Voice for Action ・国連ユース気候サミットの参加者の活動とメッセージを的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分が模擬サミットに参加したと想定して、環境保護のためにしたい活動を説明することができる。	【題材】 公民、理科、SDGs 【文法項目】 さまざまな助動詞、分詞構文（現在分詞）について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Coners 一人一台端末の活用				○	○	○	○	○	【知識及び技能】 日本語と英語の語順の違いに注意して、英文を理解することができる。助動詞・分詞構文を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 気候変動について自分ができることをわかりやすくプレゼンテーションで発表できる 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。		○	○	○	7
	Lesson 2 Aren't You Sleepy? ・動物の睡眠についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分の睡眠習慣について説明することができる。	【題材】 理科、保健体育 【文法項目】 受け身の分詞構文、副詞節中の(S+be)の省略について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Coners 一人一台端末の活用				○	○	○	○	○	【知識及び技能】 英語のリズムやイントネーションに注意して、英文を音読することができる。受け身の分詞構文、副詞節中の(S+be)の省略について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 インタビューにおける注意点を理解しようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。		○	○	○	8
	Lesson 3 Becoming Attractive to Your Audience ・アスリートのスピーチに見られる特徴についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、高校生活で達成したいことについてスピーチをすることができる。	【題材】 社会・スピーチ 【文法項目】 関係代名詞の非制限用法、仮定法過去・仮定法過去完了について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Coners 一人一台端末の活用				○	○	○	○	○	【知識及び技能】 文章の展開(列挙)に注意して、英文を理解することができる。関係代名詞、仮定法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 効果的なスピーチにするための方法を理解し、聞き手に配慮して、わかりやすくスピーチをしようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。		○	○	○	9
	Lesson 4 Are You Prepared? ・自然災害と防災についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、防災グッズについてプレゼンテーションをすることができる。	【題材】 国語・地理歴史・理科・SDGs 【文法項目】 助動詞+have+過去分詞、完了不定詞について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Coners 一人一台端末の活用				○	○	○	○	○	【知識及び技能】 文章の展開(例示・追加)に注意して、英文を理解することができる。助動詞+have+過去分詞、完了不定詞を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 効果的なプレゼンテーションにするための方法を理解し、聞き手に配慮して、わかりやすくプレゼンテーションをしようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。		○	○	○	9
2 学 期	Lesson 5 The Era of Beautiful Harmony ・日本および世界の元号についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・日本の俳句の英訳をすることができる。	【題材】 国語・歴史 【文法項目】 関係副詞の非制限用法、同格のthatについて理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Coners 一人一台端末の活用				○	○	○	○	○	【知識及び技能】 同格表現や言いかえ表現に注意して、英文を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ディスカッションの役割分担を理解しようとしている。 ・読み手に配慮して、わかりやすい俳句の英訳をしようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある		○	○	○	8
	Lesson 6 Actions to Reduce Loss and Waste ・フードロス・フードウェイストの問題についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、フードロス・フードウェイストについてのアンケートに質問項目を追加し、その理由を説明することができる。	【題材】 家庭・情報・SDGs 【文法項目】 完了形の分詞構文、複合関係詞について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Coners 一人一台端末の活用				○	○	○	○	○	【知識及び技能】 文章の展開(対照)に注意して、英文を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・英語のアンケートの構成を理解しようとしている。 ・聞き手や読み手に配慮して、アンケートに質問項目を追加し、わかりやすくその理由を説明しようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。		○	○	○	9
	Lesson 7 Living with Adventure ・南谷真鈴さんの冒険と、彼女のメッセージについての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分自身の目標や行動計画を説明することができる。	【題材】 地理歴史 【文法項目】 さまざまな仮定法、否定語＋倒置について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Coners 一人一台端末の活用				○	○	○	○	○	【知識及び技能】 やり取りをうまく継続させることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 プレゼンテーションの注意点を理解し、聞き手に配慮して、わかりやすく自分自身の目標や行動計画を説明しようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある		○	○	○	9
	Lesson 8 Power to the People! ・電池の発展についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、創造的であるためには何が必要かを説明することができる。	【題材】 理科、SDGs 【文法項目】 独立不定詞・独立分詞構文、if…以外が条件を表す仮定法について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Coners 一人一台端末の活用				○	○	○	○	○	【知識及び技能】 文章の展開(時間的順序)に注意して、英文を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ユーザーマニュアルの情報の特徴を理解しようとしている。 ・聞き手や読み手に配慮して、創造的であるためには何が必要かをわかりやすく説明しようとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。		○	○	○	8
3 学 期	Lesson 9 Traveling This Beautiful Planet ・オーバーツーリズムの問題と新しい旅行様式についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、旅行の写真をソーシャルメディアに挙げるべきかどうかについて、自分の意見を複数のパラグラフで書くことができる。	【題材】 地理歴史、公民、SDGs 【文法項目】 前置詞＋関係代名詞、強調構文について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Coners 一人一台端末の活用				○	○	○	○	○	【知識及び技能】 パラグラフごとの役割に注意して、英文を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ソーシャルメディアの特徴を理解しようとしている。 ・旅行の写真をソーシャルメディアに挙げるべきかどうかについて、読み手に配慮して、自分の意見を複数のパラグラフでわかりやすく書こうとしている。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。		○	○	○	9
	Optional Lesson 1 May I Have Your Autograph? ・ストーリーの展開を的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、ストーリーに関連する自分の考えを話すことができる。	【題材】 物語 【教材】 授業・予習ノート、Reading Core2、Four Coners 一人一台端末の活用				○	○	○	○	○	【知識及び技能】 物語の内容を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 読み手に配慮して、物語を読んだ感想を表現できる。 【主体的な学び】 自ら自主的に課題に取り組む姿勢がある。		○	○	○	9
計 89 時間																

高等学校 令和 年度 教科 外国語 科目 論理表現Ⅱ

教 科： 外国語 科 目： 論理表現Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ B 組

教科担当者：（ A組：伊藤 ） （ B組：伊藤 ） （ C組：加藤 ） （ D組：中野 ） （ E組：加藤 ） （ F組：伊藤 ）

使用教科書：（ EARTHRISE English Logic and Expression Ⅱ advanced（数研出版） ）

教科 外国語 の目標：
【知識及び技能】外国語の音声や語彙・表現、文法、言語の働きなどについて理解を深める力を養う。またそれらを、4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける力を養う。
【思考力、判断力、表現力等】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力を養う。

科目 論理表現Ⅱ	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。
【学びに向かう力、人間性等】	【知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔 書 〕 〔 発 〕					
1 学 期	Part 1: Basic Expressions Lesson 1 Have you ever experienced any cultural differences?	【題材】 「文化」 【文法項目】 さまざまな主語の形 【教材】 EARTHRISE総合演習、HyperListening、一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	3
	Part 1: Basic Expressions Lesson 2 Where do you usually buy things?	【題材】 「買い物」 【文法項目】 さまざまな動詞の形 【教材】 EARTHRISE総合演習、HyperListening、一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	3
	Part 1: Basic Expressions Lesson 3 International events and cultural exchange	【題材】 「国際交流、ボランティア」 【文法項目】 ・名詞のはたらきをする表現 ・接続詞 【教材】 EARTHRISE総合演習、HyperListening、一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	3
	Part 1: Basic Expressions Lesson 4 How have you been lately?	【題材】 「日常生活、将来」 【文法項目】 形容詞のはたらきをする表現 【教材】 EARTHRISE総合演習、HyperListening、一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	3
	Part 1: Basic Expressions Lesson 5 How do you watch movies and things?	【題材】 「エンターテイメント」 【文法項目】 副詞のはたらきをする表現 【教材】 EARTHRISE総合演習、HyperListening、一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	3
	Part2: Functional Expressions Lesson 1 Making life better	【題材】 「社会・生活」 【文法項目】 感情を表す表現 【教材】 EARTHRISE総合演習、HyperListening、一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	3
2 学 期	Part2: Functional Expressions Lesson 2 Good eating habits	【題材】 「食習慣」 【文法項目】 「助言する・忠告する」表現 【教材】 EARTHRISE総合演習、HyperListening、一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	3
	Part2: Functional Expressions Lesson 3 Visiting a new place	【題材】 「旅行」 【文法項目】 「勧誘する・提案する」表現 【教材】 EARTHRISE総合演習、HyperListening、一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	3
	Part2: Functional Expressions Lesson 4 Where would you like to live in the future?	【題材】 「暮らす場所」 【文法項目】 「賛成する・反対する」表現 【教材】 EARTHRISE総合演習、HyperListening、一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	3

[illegible]

科目 論理・表現Ⅲ

)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の文法に関する事項、対話の展開の仕方や論理構成について理解ができる。実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語句や文を用い、情報や話題や考えなどを話して伝え合うことができる。聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理構成や展開を工夫して話して伝える技能を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。	目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。言語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら主体的に英語の4技能を用いて伝える力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	「や話 」	「発話 」	書					
1 学 期	【単元】 ①Lesson 2 「The Value of Libraries」 ②Lesson 4 「Free Time」 Grammar Collection 1～4 共通テストリスニング Lesson 1～3	【題材】 ①図書館の役割 ②家で過ごす時間 【材料】 ①時刻、 ②名詞句・名詞節 【言語活動】 ①あいづちで関心を示す。 ②何かをしようと誘う。	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	15	
	【単元】 ①Lesson 5 「New Sports and entertainments」 ②Lesson 6 「Enriching Our Lives」 Grammar Collection 5～9 共通テストリスニング Lesson 4～6	【題材】 ①スポーツエンタメ ②実生活 【材料】 ①助動詞、 ②形容詞 【言語活動】 ①話を切り出す。 ②感じたことを伝える。	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18	
	【単元】 ①Lesson 7 「A Common Concern」 ②Lesson 8 「Maintaining the Ecosystem」 Grammar Collection 10～15 共通テストリスニング Lesson 7～9	【題材】 ①懸念事項 ②環境問題 【材料】 ①形容詞句、 ②形容詞節 【言語活動】 ①理由をたずねる。 ②情報をたずねる。	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18	
2 学 期	【単元】 ①Lesson 9 「A Sustainable Lifestyle」 ②Lesson 10 「The Evolving Japanese Workforce」 Grammar Collection 16～20 共通テストリスニング Lesson 10～11 Final Step Lesson 1～2	【題材】 ①持続可能社会 ②日本の労働 【材料】 ①副詞、 ②副詞句(不定詞 副詞的用法)、 【言語活動】 ①共感を求める／共感を表す。 ②相手を励ます。 その他 演習	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18	
	【単元】 ①Lesson 11 「Inside Fairtrade」 ②Lesson 12 「Volunteering for Help」 共通テストリスニング Lesson 12～13 Final Step Lesson 3～4	【題材】 ①日本を紹介する、 ②イノベーション、 ③多様性を受け入れる社会 【材料】 ①比較、 ②仮定法、 【言語活動】 ①提案する。 ②会話の間をとる。 その他 演習	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18	
3 学 期	【単元】 ①Lesson 13 「Trends in Studying Abroad」 共通テストリスニング Lesson 14 Final Step Lesson 5	【題材】 ①留学事情 【材料】 ①無生物主語 【言語活動】 ①感謝の気持ちを表す。 その他 演習	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18 合計 105	

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 外国語 科目 グローバルイングリッシュ

教科：外国語 科目：グローバルイングリッシュ 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A 組～F組：近藤）

使用教科書：（Cutting Edge Blue ）

教科 外国語 の目標： 長文読解の技術を身につける

【知識及び技能】世界の事象を Reading, Writingを通して英語で理解し、情報共有をする。

【思考力、判断力、表現力等】4 技能5 領域を活用して英語の総合力を育む

【学びに向かう力、人間性等】協働活動を通してデジタルテクノロジーを使用し、異文化の学びを実践的に行う。

科目 グローバルイングリッシュ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
スキル：Communication / Using appropriate vocabulary, words and grammar. / Reading the information and share it with mates and Managing conversation.	スキル：Critical Thinking / Synthesizing ideas and information / Selects keypoints from a range of sources to present interesting and coherent information.	スキル：Collaboration / Managing the sharing of tasks in a project / works with others to plan and execute class projects.

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）					
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Cutting Edge Blue」 出版社 エミル出版 PCを利用し、著聞読解の技術および解説する能力を身につける Chapter 1 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	・can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	4
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Cutting Edge Blue」 出版社 エミル出版 PCを利用し、著聞読解の技術および解説する能力を身につける Chapter 2 3 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	・can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	4
	定期考査	読解	○	○		○		○	○		1
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Cutting Edge Blue」 出版社 エミル出版 PCを利用し、著聞読解の技術および解説する能力を身につける Chapter 4 5 6 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	・can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	4
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Cutting Edge Blue」 出版社 エミル出版 PCを利用し、著聞読解の技術および解説する能力を身につける Chapter 7 8 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	・can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	4
	定期考査	辞書を使って難解問題に触れる	○	○		○		○	○		1
2 学 期	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Cutting Edge Blue」 出版社 エミル出版 PCを利用し、著聞読解の技術および解説する能力を身につける 私学入試問題 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	・can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	9
	定期考査	読解	○	○		○		○	○		1
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Cutting Edge Blue」 出版社 エミル出版 PCを利用し、著聞読解の技術および解説する能力を身につける 私学入試問題 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	・can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	8
	定期考査	読解	○	○		○		○	○		1
3 学 期	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Cutting Edge Blue」 出版社 エミル出版 PCを利用し、著聞読解の技術および解説する能力を身につける ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	・can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	6
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Cutting Edge Blue」 出版社 エミル出版 PCを利用し、著聞読解の技術および解説する能力を身につける ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	・can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. / can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.	○	○	○	合計 43

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 外国語

教 科： 外国語

科 目： グローバルクラスメイト

単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A 組：高野） （B 組：高野） （C組：高野） （D組：高野） （E組：高野） （F組：高野）

使用教科書：（Uncover 2）

教科 外国語

目標： グローバルな視点を育み、世界の様々な事象に触れ、自分の言葉で仲間と問題解決するスキルを英語を使って育む。

【知識及び技能】世界の事象をListening, Speaking, Reading, Writingを通して英語で理解し、情報共有をする。

【思考力、判断力、表現力等】Project型の活動を通して、仲間と共同で英語を使い、Discussionを行う。

【学びに向かう力、人間性等】異文化の学びを共同で実践的に行う。

科目 0

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
スキル：Communication / Using appropriate vocabulary, words and grammar. / Reading the information and share it with mates and Managing conversation.	スキル：Critical Thinking / Synthesizing ideas and information / Selects keypoints from a range of sources to present interesting and coherent information.	スキル：Collaboration / Managing the sharing of tasks in a project / works with others to plan and execute class projects.

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話	話 (討論)	書					
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press 仲間と共同で世界の事象について触れる。Unit 1～Unit 2 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○デジタルリソースを使用し、毎週評価を行う。○ループリックを使用し、プレゼンテーションを評価する。・Group members can share ideas and pay attention to others . They can speak and listen and keep communication open.	○	○	○	4
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press 仲間と共同で世界の事象について触れる。Unit 3 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○デジタルリソースを使用し、毎週評価を行う。○ループリックを使用し、プレゼンテーションを評価する。・Group members can share ideas and pay attention to others . They can speak and listen and keep communication open.	○	○	○	4
	定期考査	presentation, writing with PC	○	○			○		○	○		1
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press 仲間と共同で世界の事象について触れる。Unit 4 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○デジタルリソースを使用し、毎週評価を行う。○ループリックを使用し、プレゼンテーションを評価する。・Group members can share ideas and pay attention to others . They can speak and listen and keep communication open.	○	○	○	4
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と共同で世界の事象について触れる。Unit 5 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○デジタルリソースを使用し、毎週評価を行う。○ループリックを使用し、プレゼンテーションを評価する。・Group members can share ideas and pay attention to others . They can speak and listen and keep communication open.	○	○	○	4
2 学 期	定期考査	presentation, writing with PC	○	○			○		○	○		1
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と共同で世界の事象について触れる。Unit 6 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○デジタルリソースを使用し、毎週評価を行う。○ループリックを使用し、プレゼンテーションを評価する。・Group members can share ideas and pay attention to others . They can speak and listen and keep communication open.	○	○	○	9
	定期考査	presentation, writing with PC	○	○			○		○	○		1
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と共同で世界の事象について触れる。Unit 7 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○デジタルリソースを使用し、毎週評価を行う。○ループリックを使用し、プレゼンテーションを評価する。・Group members can share ideas and pay attention to others . They can speak and listen and keep communication open.	○	○	○	8
3 学 期	定期考査	presentation, writing with PC	○	○			○		○	○		1
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と共同で世界の事象について触れる。Unit 8 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○デジタルリソースを使用し、毎週評価を行う。○ループリックを使用し、プレゼンテーションを評価する。・Group members can share ideas and pay attention to others . They can speak and listen and keep communication open.	○	○	○	8
	A 単元 【知識及び技能】Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と共同で世界の事象について触れる。Unit 9 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○デジタルリソースを使用し、毎週評価を行う。○ループリックを使用し、プレゼンテーションを評価する。・Group members can share ideas and pay attention to others . They can speak and listen and keep communication open.	○	○	○	合計 45

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎 単位数 単位 2

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者： 仮屋園 圭子

使用教科書：（ 家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来 （教育図書） ）

副教材 （ Life Design 資料＋成分表＋ICT 2025 （実教出版） ）

教科 家庭 の目標：

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
【知識及び技能】	(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

		単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	知 実 識 技		評価規準	知	思	態	配 当 時 数		
		単元	指導目標										
1 学 期	4 月	A編1 生活設計1	1 自分の将来を見通そう	1 人の一生と生涯発達	○	○	【知識及び技能】・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 【思考・判断・表現】・これからの自分の人生について想像し、話し合い、まとめたり発表したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】人生設計を他者と比較し、自分の目標設定やリスク回避について向き合う。	◎	○	○	4		
				2 ライフイベントと人の生き方	○								
				ライフプラン製作									
		A編2 青年期と家族	1 これからの人生に向かって	1 あなた自身を知る	○	○		【知識及び技能】・青年期の5つの自立について理解している。現代の家族の特徴について、家族機能の変化や人々の意識の変化などから理解している。・生活に関わる法律の基本的な趣旨、家庭生活を支える社会制度について理解している。 【思考・判断・表現】・生涯発達の視点から、青年期の過ごし方や、これからの家族・家庭のあり方についてや、・ワーク・ライフ・バランスの視点からの職業労働のあり方について、考え、まとめたり、発表したりできる。 【学びに向かう力・人間性等】・家族・家庭と社会との関わりに関心をもち、男女が協力して家庭を築くという視点から自分の問題として捉えようと学習活動に取り組んでいる。	○	◎	○	4	
				2 5つの自立	○								
			2 家族・家庭とは何だろう？	1 家族を築くこと	○								
				2 法律と家族・家庭	○								
			3 これからの家庭生活と社会	1 現在の家族を取り巻く状況	○				○				
				2 男女共同参画社会	○								
		5 月	1 衣服のはたらき	3 これからの仕事と家庭生活	○				【知識・技能】・被服の機能、衣服が健康に与える影響、三原組織や編物の構造、平面構成と立体構成の特徴を理解している。・布の縫い方など、基礎的な技術を身に付けている。・被服の入手、洗濯、保管などの被服管理について理解し、管理できる技術を習得している。 【思考力、判断力、表現力等】・衣生活に関する学習を通して、自身の着装について考え、まとめたり、発表したりすることができる。・資源の有効利用まで考えた衣服の購入、再利用、廃棄までの衣服計画をたてることができる。 【学びに向かう力、人間性等】・自ら衣服を製作・補修して管理する技術を身に付ける意欲が向上している。・被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。衣服の機能や安全性、環境への配慮などの知識を生かし、衣生活に関する文化や背景について理解しながら、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。	○	◎	○	2
				1 衣服と私たち	○								
				2 衣服の機能	○								
	3 衣服と人の一生			○									
	2 衣服ができるまで		4 衣服の安全上の問題	○		◎	○			○	2		
			1 衣服の材料	○									
			2 衣服のつくり	○									
			3 衣服の計画と管理	1 衣服を選ぶ				○				○	◎
	2 衣服の手入れ			○									
	3 衣服の保管			○									
	◆衣服実習		被服実習	○	○		○	○		◎	4		
			4 これからの衣生活	1 環境にやさしい衣生活			○					2	
				2 人にやさしい衣服			○						
				3 衣生活を支える世界			○						
	4 衣生活の未来			○									
	7 月		定期考査								○	○	○
		【D編】ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動			1ホームプロジェクトとは？ 2ホームプロジェクトの計画 3発表について		○ ○ ○	○	○	○	◎	2	

2 学期	9 月	B編1 食生活	1 「食べる」ということ	1 私たちの食事 2 ライフステージと食事 3 現代の食生活	○	○	【知識及び技能】・食と健康の関わりについて知り、食事の大切さを理解している。・各ライフステージごとの食生活の課題と改善策について理解している。・食品の表示の意味を理解している。・栄養素の特徴と、それを多く含む食品について理解している。・日常用いられる食品の栄養素的特質、調理上の性質について科学的視点から理解している。・食中毒や食物アレルギーについて理解し、健康・安全を考えた調理をすることができる。・日常食の調理について、栄養バランスのよい献立作成、食材の選択、調理、盛り付け、マナー、配膳などについて総合的に理解している。・料理の作り方を理解し、基礎的な技術を身に付け、効率よく調理することができる。・資源、エネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存ができる。【思考力・判断力・表現力】・自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題と比較して、まとめたリ、発表したりすることができる。・食品の表示を理解し、購入時の判断材料とすることができる。【学習に向かう力、人間性】・食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを活用し、自身や家族の献立を考え、作成することができる。	○	◎	○	1	
			2 私たちが食べているもの	1 食品に含まれる栄養素 2 栄養素の分類 3 栄養素と食品	○	○	◎	○	○	5		
			3 安全に食べるために	1 食品の選択 2 食中毒と添加物	○	○	◎	○	○	1		
			4 健康に食べるために	1 何をどれだけ食べるか 2 献立を立ててみよう！	○	○	◎	○	○	3		
			◆調理実習	1基礎調理 2洋風献立 3中華風献立 4和風献立	○	○	◎	○	○	8		
			◆調理を科学の視点で見る		○	○						
	11 月	5 おいしく食べるため	1「おいしさ」とは	○	○	◎	○	○	1			
		6 ずっと食事を楽しむために	1 私たちの食生活と環境 2 食文化を継承しよう ◆配膳とマナー 3 これからの食生活	○	○	○	◎	○	1			
	12 月	B編3 住生活	1 「住まい」とは 2 安全な住まい 3 快適な住まい 4 住まいの課題と未来の暮らし	1 私たちの住まい 1 災害に備える 1 つながって暮らす 2 快適に暮らす 1 持続可能な住まいへ 2 これからの暮らし方を考える	○	○	○	○	○	6		
			定期考査					○	○	○	1	
	3 学期	1 月	C編1 経済計画	1 家計とお金の将来を考えよう	1 家計と社会のかかわり 2 将来の経済計画を考えよう ◆家計の金融資産	○	○	【知識及び技能】・家計と経済社会の関わり、家計における収入と支出、現金とキャッシュレスのしくみの違い、金融商品とその特徴について理解している。・生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。【思考力、判断力、表現力等】・家計管理について具体的な事例を通して、シミュレーションすることができる。	○	◎	○	2
C編2 消費生活			1 何をどうやって買う？	1 私たちの消費生活 2 契約の重要性 3 消費者信用のしくみ	○	○	【知識及び技能】・さまざまな契約のしくみ、未成年と成年の法律上の違い、消費者保護のしくみや、消費者問題の原因、消費者の責任を理解した消費行動をとることが出来る。・消費者の権利と責任を理解し、資源・環境を考えた消費行動ができる。・契約や消費者信用、多重債務などの問題について具体的に認識し、消費者として適切な判断ができる。【思考力、判断力、表現力等】・情報リテラシーについて考えている。・消費者問題や消費者の責任・持続可能な社会のためにできる消費行動のあり方について、話し合って発表することが出来る。【学習に向かう力、人間性等】・消費者問題について自分ごととして捉えて対策を考えようとしている。	○	◎	○	1	
			2 かしい消費者になろう	1 消費者問題の現状と課題 2 消費者保護のしくみ 3 消費者の権利と責任	○	○	◎	○	○	1		
C編3 環境			1 環境問題を考える	1 暮らしをふり返る 2 さまざまな環境問題 3 社会の取り組み	○	○	【知識及び技能】・環境問題についての基礎的な知識を身に付けている。・国際的視点にたった地球環境への影響、理念だけではなく実質的行動に移すことの重要性を理解している。【思考力、判断力、表現力等】・持続可能な社会のためにできる消費行動のあり方について、具体例を収集し、まとめたリ、発表したりできる。・自分の生活と環境のつながりについて考えている。	○	○	◎	1	
			2 私たちにできること	1 持続可能な消費 2 行動し、発信する	○	○	◎	○	○	1		
A編3 保育			1 子どもの成長を見つめる	1 子どもの成長と保育 2 発達と発育 3 人とかかわりと心の発達 4 子どもと遊び	○	○	【知識及び技能】・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義、子どもの生活の概要、保育者の役割、子どもを取り巻く社会や環境整備、子どもの権利と福祉について理解している。・現代の子どもを取り巻く環境の変化と課題について考えることができる。・だっこや子どもを遊ばせる基本的な技術を身に付けている。【思考力・判断力・表現力等】・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を捉え、子どもにとってよい環境について考え、意見をまとめたリ、発表したりすることができる。・現代の子どもを取り巻く環境の変化や課題についてまとめたリ、発表したりすることができる。・子どもの生活や遊びについて調査・観察したことをまとめたリ発表したりすることができる。【学習に向かう力、人間性等】・子どもに対するイメージを膨らませ、実践的・体験的な学習を通して、学習に取り組もうとしている。・保育における親や社会の果たす役割について考えようとしている。・自分が将来、保育に関わる存在であることを理解し、自分ごととして学習に取り組んでいる。	○	○	○	2	
			2 子どもの生活と保育	1 子どもの生活と親の役割 2 生活習慣と人とかかわり 3 子どもの生活と健康・安全	○	○	○	○	○	2		
		◆保育実習		○	○	○	○	○	2			
2 月		A編4 高齢期	3 これからの子育て環境	1 現在の日本の子育て事情 2 子育てを支えるしくみ 3 子どもの権利と福祉 4 これからの子育て	○	○		○	○	○	2	
			1 高齢期ってどういう時期？	1 高齢者とは 2 高齢期の心身の変化 3 高齢期の健康 4 高齢期の生活	○	○	◎	○	○	2		
			2 高齢化する日本を生きる	1 高齢化の現状 2 超高齢社会の課題 3 安心できる暮らしを支える	○	○	○	○	○	1		
			A編5 共生社会	1 共生とは何か 2 ノーマライゼーションとは	1 ノーマライゼーション	○	○	◎	○	○	1	
	学年末考査					○	○	○	1			
											合計	70

高等学校 令和7年度（3学年用）

教科 家庭

科目 保育基礎

教 科 家庭

対象学年組 第3年必修選択（B2群）

教科担当者 仮屋園 圭子

使用教科書 家庭706 保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ（教育図書）

副教材 使用しない

科目 保育基礎

単位数 2単位

家庭科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
保育基礎の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	月	時数	学習内容		学習目標と活動	知	思	主	評価基準例	評価方法例
1 学 期	4 月	2	口絵	子どもにかかわる職業を知ろう！	・子どもにかかわる職業にはどのようなものがあるか、また、その意義を知る。 ・自分が将来どのような形で子どもにかかわりたいか考える。	●			・さまざまな職業が子どもや保育に直接的・間接的にかかわっており、子どもの健やかな発達に寄与していることを理解している。	・レポート ・ワークシート
						●		・自分の将来における子どもへのかかわりについて、職業や、かわる内容などを具体的に考えられる。		
							●	・子どもにかかわる職業について関心をもち、自身が希望する職業に就くために必要なことを調べるなど、情報を収集・整理しようとしている。		
	1	★1学期に実習協力園で適宜見学を入れ、2学期に発表実習を行う。 ① 保育の意義	1 保育とは何か	★保育園見学実習 保育園見学を通して子どもの発達と保育について総合的に学び、保育にかかわる仕事への職業観を育成する。	●			・子どもの人格形成における保育の重要性を理解している。 ・保育における保護者や保育者の役割を理解している。		
			2 育ての心			●	・子どもの保育の特徴や、保育者に求められる姿勢などについて要点をまとめることができる。			
			4	② 保育の環境	1 子どもが育つ環境	・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。 ・現代の子どもや子育てで家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。	●			
	2 家庭での養育									
	3 さまざまな保育の場	●					・現在の子育て家庭が集団保育に求めていることについて、子育て環境の変化などと関連させながら具体的に考察することができる。			
	4 保育ニーズの高まりと課題						●	・身近な保育・教育施設について関心をもち、ホームページからその特色を調べるなど自ら情報を収集しようとしている。		
	5 集団保育の重要性									
	5 月	2	③ 保育の方法	1 保育の方法の基本	・子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。 ・保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べ、子どもの発達における保育・教育の目的や目標について理解する。 ・発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。	●			・保育の目標と、保育者から子どもへのはたらきかけの重要性を理解している。 ・月齢・年齢に応じた保育者の適切なかわり方を理解している。	
					●		・保育所保育指針などが目標とする子どもの育ちを支えるために、保育者としてどのようなことが大切か、自分の考えをもち、話し合うことができる。 ・月齢・年齢に応じた適切なかわり方として、具体的な声かけなどの内容を考えられる。			
		1	章末 保育の課題に取り組もう！①	子どもの気持ちに寄り添う保育者とは？	・子どもの健やかな発達のために、保育者として適切な保育環境をどのように創意工夫していくべきか考える。 ・子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。		●		・家庭での養育の課題を考察しながら、子どもの心身の安定を図るために、保育者としての月齢・年齢に応じた適切なかわり方を具体的に考え、意見をまとめたり発表したりすることができる。	・レポート ・グループ活動 ・発表
	6 月	1	① 子どもの発達の特性	1 発達とは何か	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・発達には順序性・連続性・方向性・相互性という一定の共通性がある一方で、個人差が大きいことを理解する。 ・子どもが主体的に環境にはたらきかけ、発達していくために、保育者などが応答的にかかわることが大切であることを理解する。	●			・子どもの発達の共通性・個別性について理解している。 ・子どもの発達は、身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。 ・子どもの心身の発達のために、保育の環境が重要であることを理解している。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト
				2 乳幼児期の大切さ						
		3 発達の共通性								
		4 発達の個人差				●				
		5 発達と環境								
		2	② 乳幼児の発育と発達	1 乳幼児期の発育	・乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の発育の特性を理解する。 ・乳幼児期の生理的特徴について理解する。 ・乳児期・幼児期における感覚・運動機能、情緒、認知機能、言語、社会性の発達の特性について理解する。 ・子どもと大人ではもののとらえ方に違いがあることを知る。 ・愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。また、家族・きょうだい・友だちなどの対人関係と社会性の発達について考える。	●			・乳幼児の発育や生理的特徴が大人とは大きく異なることを理解している。 ・発達の各側面における過程を理解している。 ・発達の過程で子どもができるようになることを、月齢や年齢に応じて挙げることができる。 ・情緒や社会性といった心の発達に関して、親や保育者との愛着形成が重要であることを理解している。	
				2 乳幼児期の生理的特徴						
				3 乳幼児期の発達の特性				●		
		1	章末 保育の課題に取り組もう！②	発達の個人差を大事にした保育って？	・乳幼児期の子どもの健全な心身の発達について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・子どもの発達の個人差に配慮しながら、心身の発達を促すために保育者としてどのように接するとよいか考える。		●		・月齢・年齢ごとの子どもの心身の発達の様子を理解した上で、子どもの個人差を考慮した適切なかわり方を考察し、具体的に提案することができる。	・レポート ・グループ活動 ・発表
							●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもの心身の発達を促し、子どもの気持ちに寄り添うにはどうかわるべきかなど、主体的に捉えようとしている。		
	7 月	2	① 子どもの健康と生活	1 子どもの養護	・保育所保育指針などを取り上げながら養護の必要性・目的を理解し、発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・子どもを安全に養護するためのポイントや、注意点について知る。 ・基本的生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。 ・生活習慣を題材にした絵本などから、生活習慣の習得を促すにはどのような工夫が必要かを考える。	●			・子どもの養護の必要性について理解し、その発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身につけている。 ・子どもの日常生活における世話の仕方とその役割について理解している。	・レポート ・実習レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト
				2 生活習慣の習得		●	・生活習慣を題材にした絵本を選ぶ活動などを通じ、生活習慣の習得を促すための、保育者としての具体的なかわり方などを考察し、工夫することができる。			
4		② 子どもの食事	1 栄養と食生活	・子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。 ・食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割をもつことを認識する。 ・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているかを考察する。 ・幼児食実習や幼児用おやつづくりなど、実習を通じて子どもをイメージする。	●			・乳幼児期の食生活の特徴や、発達に必要なエネルギー・栄養素などについて理解している。 ・子どもの食生活の特徴に合った料理の作り方を理解し、基礎的な技術を身につけている。		
			2 乳児の食事							
			3 離乳		●				・現代の子どもの食生活の変化について、健康や生活習慣に関する課題を見つけ、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 ・料理を作る際に、食べやすさや栄養素のバランス、アレルギーに配慮するなど、工夫することができる。	
			4 幼児の食事							
2		◆調理実習			●	・保育施設で行われている食育活動などに関心をもち、地域での子どもや食生活にかかわる取り組みについて主体的に情報を収集しようとしている。 ・調理に関心をもち、調理実習に積極的に参加している。				
					●	・保育実習において、子どもの発達や生活の特徴を調査・観察し、まとめたり発表したりすることができる。 ・保育実習において、子どもの発達段階や生活の特徴を意識しながら、積極的に子どもとかわらうとしている。				
8 月	10	巻末	保育実習に行ってみよう！	・実際に子どもとふれ合うことを通じて、子どもの保育の方法や発達、健康・安全、福祉、遊びについて理解を深める。		●		・保育実習において、子どもの発達や生活の特徴を調査・観察し、まとめたり発表したりすることができる。	・実習レポート ・グループ活動 ・発表	
						●		・保育実習において、子どもの発達段階や生活の特徴を意識しながら、積極的に子どもとかわらうとしている。		

2 学 期	9・10 月	2	3 章 子 ど も の 生 活	③ 子どもの衣服と寝具	1 子どもの衣服の役割	・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・衣服の選択を間違えると、思わぬ事故につながることもあると知り、安全な衣生活について考えることができる。 ・適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。	●		・乳幼児の発達や生活の特徴から、適切な衣服・寝具の状態について理解する。 ・子どもの衣生活を支える着替えや衣服づくりの仕方を理解し、基礎的な技術を身につけている。	・レポート ・実習レポート ・ワークシート ・小テスト ・準拠ノート ・定期テスト
					2 子どもの衣服の選び方					
					3 子どもの衣服の調節					
					4 おむつ					
					5 子どもの寝具など					
					◆被服実習					
	5	④ 子どもの健康と安全	1 保育者の役割	★リトミック体験実習⇒乳幼児を対象とした音楽教育の指導法「リトミック」を生徒が体験することにより、より実践的な保育技術の知見を広げさせる。乳幼児への表現教育について考えさせる。 ・子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を知る。 ・子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さを理解する。また、病気の際に落ち着いて対処するための知識を得る。 ・子どもの健康を守るために、社会がどのようなサポートを行っているかを知る。 ・住まいに潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考えることができる。 ・発達障がいや医療的ケアをはじめとする、子どもの健康課題について、SDGsと関連させながら理解する。	●		・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準拠ノート ・定期テスト		
			2 子どもの病気の特徴							
			3 子どものおもな病気							
			4 病気の子どもの看護の方法							
			5 病気の予防							
			6 子どもの安全							
1	章末 保育の課題に取り組もう！③	保育施設での危険をどう防ぐ？	・子どもの健康と安全について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・保育施設で起こりうる危険について理解し、保育者として子どもの健康・安全を守るために具体的にどのような対策を取るべきか考える。	●		・保育施設で起こりうる事故について、子どもの発達過程や生活の特徴を踏まえながら考察し、子どもを危険から守るための具体的な方策を提案することができる。 ・自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちの自由な生活を確保しつつ事故を防ぐにはどうしたらよいかなど、自分ごととして課題に取り組もうとしている。	・レポート ・グループ活動 ・発表			
11 月	2	① 保育にみる児童観	1 大人の意のままになる存在	・子どもが保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知る。 ・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 ・子どもの福祉の理念について理解し、歴史的な経緯を知る。 ・児童福祉法や児童福祉関連施設の概要とその役割について理解する。	●		・世界・日本の児童観や子どもの福祉の変遷の歴史が、現代のさまざまな法律や制度に生かされていることを理解している。 ・児童福祉の理念と特徴、法律や制度、福祉にかかわる施設の役割について理解している。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準拠ノート ・定期テスト		
			2 「子ども」の発見							
	3	② 児童福祉の理念と法規・制度	1 児童福祉の歴史	・児童福祉法や児童福祉関連施設の概要とその役割について理解する。	●		・児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。			
			2 児童福祉の法律							
			3 児童福祉にかかわる施設							
1	章末 保育の課題に取り組もう！④	すべての子どもに充実した保育を！	・子どもの福祉について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・障がいの有無や貧困・虐待、国籍の違いなど、多様な事情・背景をもつ家庭や子どもたちが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。	●		・すべての子どもが充実した保育を受けられるように、保育者としてできることを、個々の家庭の事情などにも配慮しながら具体的に考え、提案することができる。 ・自身が保育者になることを想像しながら、子どもや保護者を支えることを目標にして積極的に支援策を考えようとしている。 ・保育施設と行政などが連携した子育て支援について関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。	・レポート ・グループ活動 ・発表			
12 月	1	① 子どもの文化の意義	1 子どもの文化とは	・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 ・近年の少子化、高度情報化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。	●		・子どもの文化やそれを支える場の役割や意義を理解している。 ・子どもの文化の現状を捉え、今後の課題について考察することができる。			
			2 子どもの文化の現状							
	1	② 子どもの文化を支える場	1 児童文化施設	・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 ・近年の少子化、高度情報化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。	●		・子どもの文化の現状を捉え、今後の課題について考察することができる。			
			2 その他の施設							
	3	③ 子どもと遊び	1 遊びの意義	・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通じて理解する。 ・子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるか考える。 ・子どもの遊びに対する、保育者としての適切なかかわり方を理解する。	●		・子どもの健やかな発達が遊びによってもたらされることを理解している。 ・おもちゃ作りなどの活動を通して、子どもの遊びの特徴や、保育者としての適切なかかわり方を捉えている。 ・おもちゃづくりなどの活動を通して、子どもが楽しく安全に遊ぶことができるように工夫することができる。 ・現代の子どもの遊びを取り巻く現状を理解し、課題について考察することができる。 ・身近な地域の遊びについて関心をもち、公園などの利用状況や、遊び場を支えるNPO法人などの活動について積極的に調べようとしている。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準拠ノート ・定期テスト		
			2 遊びの種類と発達							
3 遊びと遊具のかかわり										
4 遊びの現状										
3 学 期	1 月	3	④ 子どもの表現活動	1 子どもの表現活動の意義	・子どもの表現活動によって培われる能力について知り、表現活動の重要性や意義を理解する。 ・表現活動で子どもの意欲を引き出し、心身を育むための、保育者としての適切なかかわり方を理解する。	●		・子どもの発達における表現活動の意義を理解している。 ・表現活動において、子どもの意欲を引き出すために保育者はどのようにかわるとよいか、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。 ・保育施設で行われている表現活動に関心をもち、積極的に体験しようとしている。	・レポート ・グループ活動 ・発表	
				2 造形表現活動						
				3 言語表現活動						
				4 音楽・身体表現活動						
				5 情報手段などを活用した表現活動						
	1	章末 保育の課題に取り組もう！⑤	目的に合った遊びを考えよう！	・子どもの遊びについての課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・年齢に応じた子どもの発達を促すことに適した、具体的な遊び方を提案する。	●		・月齢・年齢ごとの子どもの遊びの特徴を理解した上で、心身の発達を促すために、適切な遊びを企画し、発表することができる。 ・自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちが楽しめるように積極的に取り組もうとしている。 ・保育施設で行われている遊びに関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。	・レポート ・グループ活動 ・発表		
適 宜			ま と め	保育の学習をふり返ろう	・保育の学習を通じて自分自身の子どもや保育に関する考えがどう変わったか振り返り、成長を実感する。	●		・これまで学習してきた内容を振り返り、保育にかかわる内容をまとめることができる。 ・子どもや保育について、学習前後の自身の考えの変化などをまとめることができる。 ・各章で提示されたSDGsの目標を達成するために、自分自身や社会はどのようなことができるか、話し合ったり、発表したりすることができる。 ・これまで学習してきた内容を踏まえ、将来自分がどのような形で子どもにかかわっていくかをイメージしようとしている。	・レポート ・発表	
			巻 末	保育技術検定に挑戦してみよう！	・子どもの表現活動についての理解を深め、適切にかかわるための技術を身につける。 ・子どもの看護についての理解を深め、健康・安全を守ための技術を身につける。 ★全国高等学校家庭科保育技術検定の内容を知る。	●		・表現活動について、保育者として適切にかかわるための基礎的な技術を身につけている。 ・看護について、保育者として適切にかかわるための基礎的な技術を身につけている。 ・表現活動において、子どもの情緒や社会性などを育むことができるように、演じ方や制作方法などを工夫している。 ・看護において、子どもの安全や心の状態に十分配慮し、かかわり方を工夫している。 ・保育の技術に関心をもち、将来の職業を見据えながら、子どもの表現活動や健康・安全などについての理解を深めようとしている。	・実習レポート ・グループ活動 ・発表	

学 習 の 評 価	評 価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技能	・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。 ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。
		思考・判断・表現	・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。
		主体的に学習に取り組む態度	・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。